



薬友会会長

萬年 成泰 9期

薬友会会長ご挨拶

この4月2日に薬学部・薬学研究科の入学式がありました。薬学部は、この春第69期生を迎えました。私は9期でありますので丁度60年の差があり、薬学部も本当に歴史のある大学になってきたと感慨一入でした。勿論歴史があるだけではなく、この間、薬学部・薬学研究科は研鑽を重ねられ、その実力は各界の認めるところとなって来ており、OBとしましても嬉しく、頼もしい限りです。大学側は、数年前より、さらに実力の向上と国民への成果のフィードバックを図るべく動き出しておられ、大阪大学薬友会にも一体となつてのサポートを求めておられます。この趣旨に強くご賛同くださった本学卒業生がおられ、当会は、大阪大学薬友会だより16号にも記しましたように、大阪大学薬友会賞を薬学部との共催で創設することを決議し、2013年3月より優れた業績を上げられた職員と学生諸氏の表彰を行ってきました。本年も3月22日に学位記授与式に併せて本賞の授与式が行われましたが、今回から賞名を大阪大学沢井記念薬友会賞といたしました。上に書きました賛同者とは沢井製薬株式会社代表取締役で当校12期の澤井弘行代表取締役であります。諸般の事情によりこれまでお名前を冠するのを控えて参りました。しかし、本年より、その制約がなくなりましたので本来のご貢献を讃えて冠名を付した次第であります。私も毎年、本賞の審査に

参加させていただいておりますが、いずれの発表も大変興味深いものですし、実用化の夢も抱かせてもらっております。

また、昨2016年度の薬友会理事会において、堤康央研究科長から大学と薬友会との協奏・協同による両者の相互理解の深化とそれに伴う薬学部・薬学研究科と外部の卒業・修了生の世界とを合わせた総合的実力の向上を図りたい旨ご提案があり承認されました。具体的には、学生を入学時から薬友会員とし、薬友会の協賛で入学式後の歓迎会、学位記授与式後の懇親会、外国人留学生の懇親会などを開催し、そこに薬友会員も参加するというものです。また、薬友会理事会と幹事会の体制強化の観点から、若手の役付き理事を指名し、協奏・協同での取組を強化しております。このような交流により、学生・職員は、早くから外の卒業生・修了生のいる社会の実体を知ることができ、外の薬友会員には大学の現状を知って、その成果を社会につなぐための情報源となることを期待されます。

会員の皆様には、このような薬学部とそこから外へ出て行った方々とのつながりを強め、ひいては社会に対する貢献を強めようとするこのような改革を是非ご支援くださいますようお願い申し上げます。

以上

研究科長ご挨拶

薬学研究科長・薬学部長
薬友会幹事長

堤 康央 39期



薬友会会員の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のことと存じます。平成29年度の始まりにあたり、大阪大学薬学部・薬学研究科（「阪大薬学丸」）の構成員を代表し、ご挨拶とご報告を申し上げます。

本年度は新たに、学部学生として第69期81名（薬学科：26名、薬科学科：55名）と、大学院生として院65期102名（創成薬学専攻博士前期課程：81名、同後期課程：19名、医療薬学専攻博士課程：2名）を、「阪大薬学丸」に迎えました。大学院生のうち、19名は、留学生であり、スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業を着実に推進でき、薬友会会員の国際展開に今後大きく貢献してくれるものと期待しております。また、第102回薬剤師国家試験における新卒者の合格状況は、22/23名（95.65%）であり、今後益々の奮闘を期待しているところです。

はじめに、部局内の人事異動に関してですが（紙面の都合上、教授会メンバーに限局させていただきます）、昨年7月末日で薬品製造化学（製造）分野准教授の好光健彦先生〈特別会員〉が退職され、岡山大学薬学部創薬有機化学講座の教授としてご栄転されました。一方で、10月1日（日）付けで、薬品製造化学（製造）分野准教授に、井川貴詞先生〈特別会員〉が昇任されました。また、天然物化学（生薬）分野教授の小林資正先生〈22期〉が、この3月で定年退職され、同分野准教授の荒井雅吉先生〈特別会員〉が、天然物創薬学（生薬）独立分野の特任教授に昇任されました。さらに、4月1日（土）付けで、先端免疫治療学寄附

講座の特任教授として岡本正人先生〈特別会員〉、先進医薬学（先進）分野准教授として前田真貴子先生〈特別会員〉、生物有機化学（薬化）分野講師として山口卓男先生〈院51期〉が着任されるなど、多くの先生方が「阪大薬学丸」に乗船され、心強く思っています。

また、国（文科省）が2014（平成26）年4月21日（月）に公表したミッションの再定義のなかに記載されていますように、「阪大薬学丸」では、医薬品・再生・細胞医療はもとより、化粧品・食品・環境など、幅広い薬学領域のなかで、レギュラトリーサイエンス（RS）研究教育を推進し、世界に貢献できるリーダーを人材育成することが求められております。本観点から、2年間、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）に出向されていた、前田真貴子先生が復職され、前田真一郎先生〈48期：講師〉と共に、基幹分野としての先進医薬学（先進）分野を担当頂くことになっております。さらに、ご承知のように、上島悦子先生〈25期：教授〉には、幡生あすか先生〈58期：助教〉、仁木一順先生〈59期：助教〉と共に、基幹分野としての医療薬学（療薬）分野をご担当頂いており、今後の「阪大薬学丸」での「創薬臨床力」の強化に係る研究教育、人材育成と、「ものづくり（創薬）」が一層加速するものと期待しております。

一方で、これまでの先制心身医薬学寄附講座、先端化粧品科学（マングラム）共同研究講座、大阪大学創薬推進拠点（*附属創薬センターAMED構造展開ユニット；新センター構想あり）に加え、

先端免疫治療学寄附講座が加わり、またこの夏から秋を目処に、新たな共同研究講座の設置依頼が複数あるなど、産学共創が深化しつつあります。また、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）、研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所（NIBIOHN）との研究交流が活性化すると共に、各種財団や産業界、薬友会などのご支援での若手研究者や学生の顕彰、海外への派遣・受入、ダイバーシティの充実が進展しており、さらに、未来戦略機構第六部門（創薬基盤科学研究部門）が先導的学際研究機構に移管されたことも相俟って、学内外での創薬研究教育、人材育成が、産学官連携・グローバル化のもとで、加速しております。

現在、文科省および大学本部との協議中ではありますが、阪大ならではの薬学6年制教育改革を、早ければ平成32年度の入学生から対象にしたいと思っております。そのなかで、指定国立大学制度を活用した規制緩和、卓越大学院制度を活用したジョイントデグリー、医歯薬・病院・薬局との連携強化などに加え、学部入試制度の改革（平成32年度入試からを目標）、医療系異分野から多様な価値観を持った学生を受け入れるための編入学・学士入学制度の導入（平成31年度入試からを目標）、大学院入試制度改革（平成30年度入試からを目標）を教育推進会議、学務会議、将来構想WGなどをお願いしており、積極的に「勝ちに行く」姿勢で臨みたいと思っております。これら「阪大薬学丸」ならではの取組は、准教授・講師・助教の若手の先生方の、母校と学生への「ひたむきな愛」、薬学領域での研究教育への「熱い

想い」、そして自身を磨きあげたいという「激的な夢」から発せられたものであり、若手の力で変革していく「阪大薬学丸」を応援頂ければ幸甚です。

薬友会との共催事業に関しては、会長の萬年成泰先生〈9期〉をはじめとする理事会の先生方、薬友会会員の諸先輩方のご理解とご支援のもと、若手教員や学生の顕彰、海外派遣支援に加え、現役の院生・学部生・留学生との歓迎会や激励会、交流会への支援・参加と、ますます密になっており、本学教職員、学生のモチベーションの向上や「絆」の形成へとつながっております。この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。なお、これら薬友会との共催事業に関しては、別頁をご参照頂きますと幸いです。

最後になりましたが、本年度は、議長の橋本均先生〈特別会員〉をはじめとする薬学評価会議の先生方に大きなご支援を頂きつつ、第三者評価を受けることになっております。大学改革の嵐が続くなか、引き続き、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

末筆ではありますが、諸先輩方が築きあげてこられた伝統と実績を大切にしながら、「阪大薬学丸」が、今後さらに発展していくためには、薬友会関係者の皆さま方との連携が不可欠です。より一層の縦横の関係強化と、ご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます、年度始めのご挨拶にかえさせていただきます。

平成29年4月吉日

濱堯夫先生追悼・偲ぶ会 平成28年12月4日(日)

本学薬学部2期生で薬友会名誉理事、神戸学院大学元学長の濱堯夫先生が平成28年9月23日に85歳にて逝去されました。そこで先生の死を悼み、同年12月4日(日)午後1時、濱先生の思い出の地である神院大有瀬キャンパス学生会館マナビホールにおいて、「濱堯夫先生追悼・偲ぶ会実行委員会」(阪大・神院大における濱先生の門下生で結成:代表:阪大薬12期・元神院大学長の眞弓忠範)を中心として、神院大薬と同大学同窓生組織薬学会の共催のもと、大阪大学からの参加者を加え、総勢250名を超える参列者に囲まれて、濱堯夫先生追悼・偲ぶ会がしめやかに執り行われました。田中慶一先生(阪大薬13期・元神院大栄養学部教授)が司会を務め、定刻にご遺族が入場されました。濱先生のご冥福を祈る黙祷の後、司会者による濱先生ご経歴の紹介と続き、西本誠實神院大理事長から濱先生への感謝のことは、佐藤雅美神院大学長からは人情味あふれる追悼の辞、門下生を代表して眞弓忠範先生からは涙あふれる弔辞が寄せられました。ご遺族を代表して濱章夫様より、西本理事長への神院大創立50周年記念植樹事業への寄付(目録)が手渡され、引き続き感謝のご挨拶がありました。ご遺族の献花に続き、代表献花(西本誠實理事長、佐藤雅美学長、松本史朗神院大事務局長、宮本善弘元神院大事務局長、山崎裕康神院大薬学部長、堤康央阪大薬学研究科長、三村昌司神院大薬学会会長、萬年成泰阪大薬友会会長、川端常樹阪大微生物薬品化学教室同窓会会長、眞弓忠範追悼・偲ぶ会実行委員会代表)があり、参加者全員が一般献花して追悼の会は約1時間で終了しました。参列者は、濱先生のご逝去を嘆き降りしきる雨の中「偲



ぶ会」会場である9号館ハーフタイムに移動しました。ご遺族とご遺影の到着を待ち、14時15分、河合裕一先生(阪大薬22期・神院大薬学部教授)が司会を務め、偲ぶ会が始まりました。谷口弘行元神院大学長の挨拶に続き、萬年成泰阪大薬友会会長の音頭で献杯して、歓談へと移行。阪大薬8期の川端常樹氏と14期の奥村一氏の挨拶に続き、宮本元事務局長の挨拶。ここで、ハンサムな濱先生の思い出の写真についてユーモアを交えながら、スライドにて紹介(中川晋作阪大薬学部教授・神院大薬7期生)。紀氏健雄(阪大薬9期・元神院大薬学部長)、神院大薬・第7研究室同窓生を代表して1期生の野崎嘉秀氏をもって挨拶を終えました。15時40分、「濱堯夫先生追悼・偲ぶ会実行委員会」を代表して田中慶一先生が追悼・偲ぶ会にご参加いただいた方々、ならびに、この日のための準備と片付けなど、親身になってご協力いただいた神院大の「学生支援グループ」と「総務事務グループ」の皆様への御礼の挨拶を述べて、盛会のうちに終了しました。

(文責 濱堯夫先生追悼・偲ぶ会実行委員会)

小林資正教授 最終講義・生薬学講座 天然物化学分野同窓会～小林資正教授の定年退職をお祝いする会～の開催

平成29年3月31日をもって定年退職を迎えられた天然物化学分野教授小林資正先生の最終講義が3月9日に、また、定年退職のお祝いを兼ねた生薬学講座および天然物化学分野同窓会が、3月11日に開催されました。

薬学研究科1号館3階沢井ホールにおいて行われた「底

生海洋生物成分からの医薬シーズの探索」と題した最終講義では、名誉教授の先生、学内の教職員の方々とともに、多くの大学院生の聴講が印象的でした。薬学研究科長 堤康央先生のご挨拶に続き行われた講義では、世界に先駆けて成功された海洋生物由来サポニンの単離と構



造解析研究をはじめとして、その後の研究を、医薬シーズ創出を指向した探索研究へと展開された理由や天然物創薬への思いをお話しされながら、先生が見出されてきた数多くの新奇な活性天然物について、その合成研究やケミカルバイオロジー研究を交えながらご講義賜りました。

また、千里阪急ホテルで開催された同窓会ならびに定年退職をお祝いする会は、小林先生のご意向で先生と同世代以降の同窓生を中心にお声がけさせて頂き、摂南大学名誉教授中西 勤先生、京都薬科大学名誉教授吉川雅之先生をはじめ、海外からの参加者も含め 100 名以上の同窓生にご出席頂いた中での開宴となりました。

今回は、小林先生が天然物化学分野を主宰されてから初めての同窓会ということもあり、小林先生の開宴のご挨拶では、これまでの研究生活を振り返りつつ、薬学部・研究科の近況などをお話されました。そして、生薬学講

座ご出身で、現分子合成化学分野（合成）教授藤岡弘道先生のご発声による乾杯の後、17 名の同窓生に近況、研究室や小林先生との思い出などをお話し頂きました。特にここでは、当時の研究室の様子や小林先生のお人柄などの話が多くあり、時折会場から笑いもおきながら、始終和やかな雰囲気では進みました。そして終盤に、小林資正先生のこれまでの研究・教育へのご尽力に対する感謝を込めて、在校生の水野華奈子さん、伊藤みなみさんから、花束と記念品の贈呈が行われ、最後に小林先生からのお礼のご挨拶とともに、これを機に定期的に同窓会を開催することを約束して閉宴となりました。

大変お忙しい中ご臨席いただきました薬友会の皆様には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

前 天然物化学分野・准教授
(現 天然物創薬学分野・特任教授)
荒井 雅吉

新任教授紹介

荒井 雅吉

(大阪大学大学院薬学研究科 附属創薬センター 創薬チャレンジユニット 天然物創薬学分野 特任教授)



本年 4 月 1 日付けをもちまして、現小林資正名誉教授の定年退職にともない設置された、独立分野 天然物創薬学分野特任教授を拝命致しました。この場をお借り致しまして、薬友会の皆様方にご挨拶申し上げます。

私は、1998 年に北里大学大学院薬学研究科の博士課

程を修了し、その後、(社)北里研究所 生物機能研究所の研究員として、大村 智先生、供田 洋先生のご指導のもと、陸棲微生物が生産する天然物からの創薬研究に従事しました。また、当時は「ケミカルバイオロジー研究」という言葉はほとんど使われておらず、「バイオプローブによる研究」という言葉が汎用されていましたが、生物や微生物の新たな代謝経路やシグナル伝達を見出すことを目的に、活性天然物の作用機序や結合タンパク質の

解析を同時に進めておりました。2004年からは、結核菌に対する遺伝子組み換え技術の開発と、それを利用する薬剤耐性機構の解明や結核ワクチンの開発などを行っている、米国アルバート・アインシュタイン医科大学のWilliam R. Jacobs, Jr. 博士のもとで、抗結核薬イソニアジドの標的分子解析および結核ワクチン候補株の探索に従事する機会を得ました。そして、2007年に小林資正先生が主宰されていた天然物化学分野に助教として就任し、現在まで海洋生物や海洋微生物を探索源とする医薬シーズ探索とともに、見出した活性天然物によるケミカルバイオロジー研究を進めて参りました。

独立分野においても、新たな探索研究手法やケミカルバイオロジー研究の技術を導入・確立しつつ、海洋薬用

資源からの新奇な活性天然物の探索、見出した活性天然物の全合成とアナログ化合物合成、そして標的分子解析を中心に研究を推進する所存ですが、天然物を基軸とするアカデミア創薬をより強く意識して研究を展開するという思いを込めて、分野名を天然物創薬学分野とさせて頂きました。また、本分野は、研究科の先生方のご指導と評価を受けながら、基幹分野への昇格を目指す5年間限定の研究室です。浅学であることに加え、このような独立分野での初めての研究室主宰という緊張もありますが、これを逆に原動力に変え、より一層、研究・教育に邁進する所存です。そして少しでも薬学研究科の発展に寄与できればと思っております。今後とも薬友会の皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【称号付与】 毒性学分野 堤 康央教授に対し、「大阪大学栄誉教授（Osaka University Distinguished Professor）」の称号が付与されました。

概要

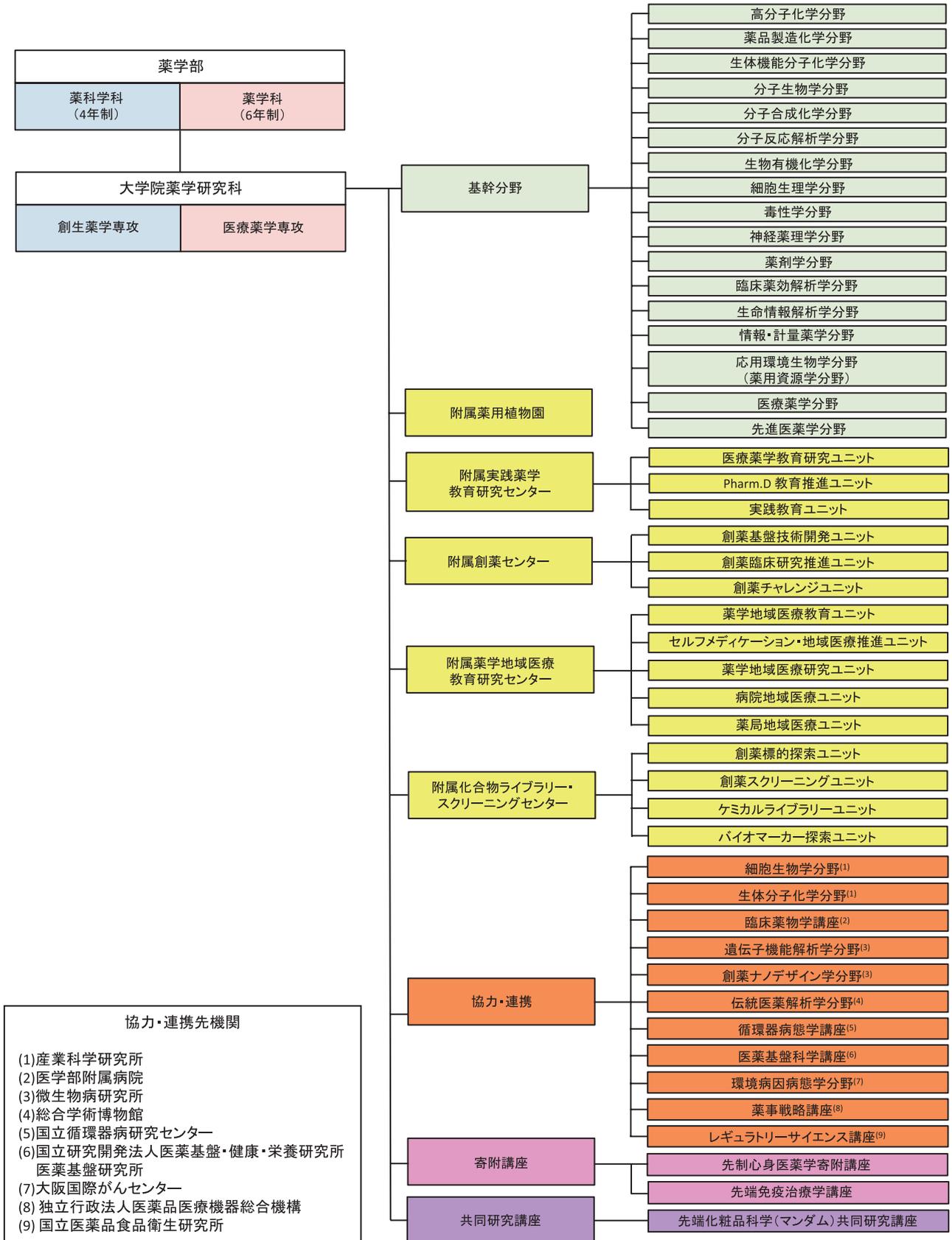
大阪大学栄誉教授（Osaka University Distinguished Professor）の称号付与
堤 康央（毒性学分野 教授）

大阪大学では、平成29年4月1日に施行された『大阪大学栄誉教授称号付与規程』により、ノーベル賞、文化勲章、フィールズ賞、文化功労者、日本学士院賞、日本学士院エジンバラ公賞、日本芸術院賞、日本国際賞、

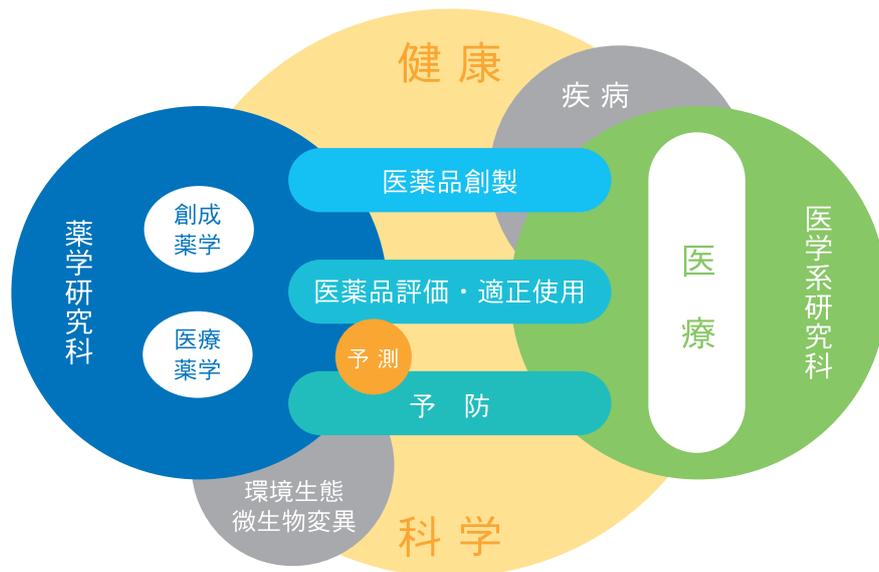
紫綬褒章、京都賞、日本学術振興会賞その他これらに相当する著名な賞を受賞し、本学の教育、研究及び社会貢献の推進に先導的な役割を担う本学教授に対して、栄誉教授の称号を付与することとなり、薬学研究科から、堤 康央教授が選出されました。



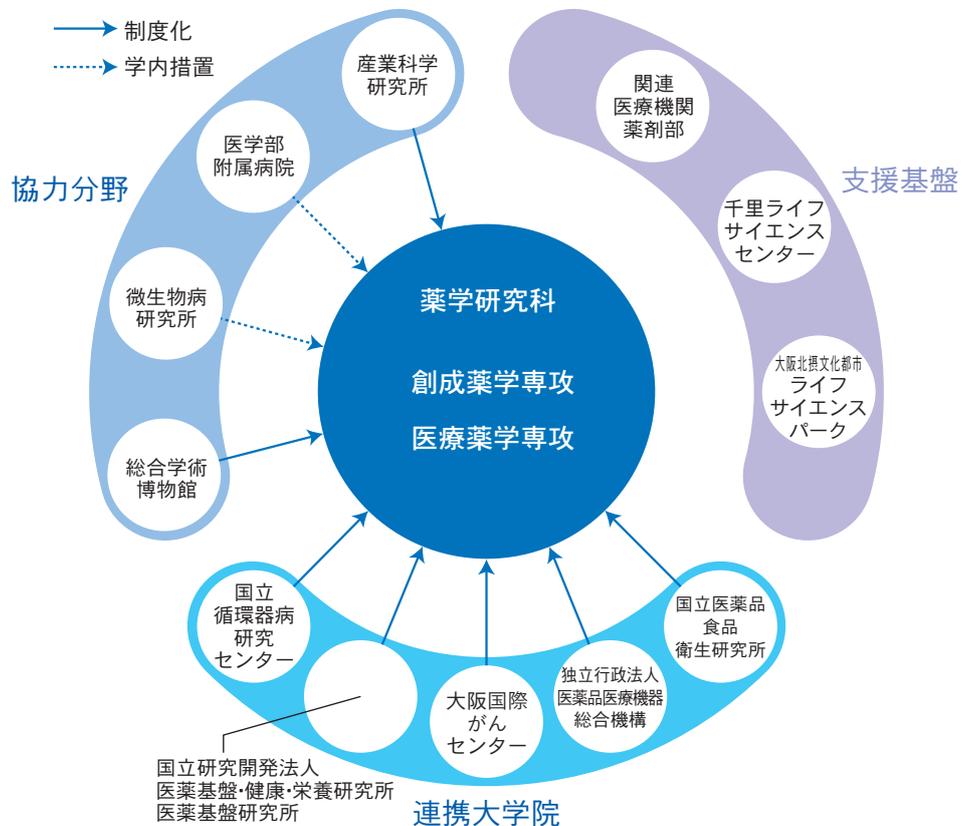
薬学部・大学院薬学研究科の組織



薬学研究科 研究科目概念図



薬学研究科 組織構成概念図



大阪大学薬学部・大学院薬学研究科学位記授与式 / 大阪大学沢井記念薬友会賞授与式 / 激励会 開催

平成 29 年 3 月 22 日（水）、極めて優秀な学業成績を収めた 10 名の薬学部 6 年制、4 年制の学生に薬学部賞を、極めて優秀な研究業績をあげた薬学部 4 年制、6 年制、修士、博士の学生に沢井記念薬友会賞を授与すると共に、顕著な業績をあげた若手研究者 2 名に、研究部門での沢井記念薬友会賞が授与されました。また、欧米に比肩する臨床経験、研究教育、レギュラトリーサイエンス研究教育を達成した 6 年制卒業生には、別途、PharmD コース（大阪大学）の修了書を、本学総長名・学部長名で発行しました。その後、薬友会の支援で、激励会を開催し、大いに盛り上がり、先輩、後輩の枠を超えた懇親が深まりました。



学位記授与式



沢井記念薬学会賞授与式



激励会

平成 29 年度薬学部 69 期生、大学院薬学研究科 65 期生 履修指導・歓迎会開催！

平成 29 年 4 月 4 日（火）、平成 29 年度薬学部・薬学研究科履修指導を挙行了しました。

はじめに、堤学部長から薬学部の概要についての説明があり、続いて萬年先生から、同窓会薬友会についてのお話を伺いました。平田学務会議議長からは、履修、学生生活、安全指導、薬学部における教育目標と 3 つのポリシー等の重要な説明を行いました。学部の履修指導では、研究室配属までの 2 年間相談等に対応する各分野の担任教員と学生の顔合わせを行い、同窓会薬友会の援助により歓迎会を開催し、新入生、教員、同窓会薬友会の懇親を深めました。

午後の大学院履修指導では、学際研究プログラム等について、各プログラム担当教員からの説明がありました。



大阪大学薬学研究科・薬学部、大阪大学薬友会 合同 留学生歓迎会

平成 29 年 5 月 19 日（金）、薬友会と薬学研究科・薬学部が合同で留学生歓迎会を開催しました。薬友会会長の萬年成泰先生にもご来賓頂き、海外からの特任教員・研究者（9 名）、留学生（26 名）とそのご家族と共に、楽しい時間を過ごしました。



同窓会だより

2期



2期同窓会

日時 2017年5月16日

場所 ヒルトン大阪「王朝」

昨年は6月だったが本年は例年通り5月16日にヒルトン「王朝」にて開催した。昨年の出席者より、3月に佐用（神院大）が逝去、明日香村の脇本が欠席、代わりに近藤（阪大）が加わった。久しぶりに写真が出来た。前列左より筆者（昭薬大）、紅一点の園田（吉村）、天理

の今村、幹事役の稲津（シオノギ）、近藤、後列抱（ベアリンガー）、森田（サントリー）、塚本（自営）、東西を往復している小西（藤池）である。何人かは90歳を迎えるかも知れないが、全員は無理だから、とりあえず明年5月に集まることにした。（松本 光雄）

12期



阪大・薬・12期クラス会（金沢） 2016/04/07

12期同窓会

日時 2016年4月7日～8日

場所 KKRホテル金沢

12期同窓会は卒業50周年記念として開催した前回から2年毎に開くことになり、毎回クラスの半数の30名近くの同級生が集まります。今回は北陸新幹線が開業したこともあり、4月7日に金沢で開催しました。直前になり2名が欠席しましたが、当日の悪天候にもかかわらず、関東からの3名を含めて26名が参集しました。

前回以降に物故者が一人でもなかった幸運に感謝し、美味な加賀料理に舌鼓をうちつつ、幹事が用意したテーマ「今までで一番楽しかったこと、これから楽しみ、今後の予定、など」を記したカードを各人が引き、そのテーマについての話をしました。そのため、いつもの近況

（病気や苦労話など）ではなく、新鮮で前向きな話も多く聞くことができ、改めて後期高齢者となっても若い同級生の頼もしさを感じました。その後、幸運にも風雨が止んだ金沢城跡の夜桜見物を楽しんだのち、いつものように夜更けまで別室で会話を続けました。翌日は用事のあった3人を除き、前日の風雨に耐えた桜並木の兼六園をガイド付きで散策したのち、加賀料理のお昼をいただき、次回の幹事を山田、脇坂、大西3氏にお願いすることにして、2年後の再会を約して散会しました。

なお、今回の幹事は梅尾、進藤、西原でした。

16期



16期同窓会

日時 2016年10月15日

場所 梅田「ロドス」

10月15日、梅田のいつもの場所の中華料理「ロドス」において、卒業後49年のクラスが開かれました。この会は還暦を期に毎年開催することにして連続12回目の開催になっております。

当日は合計21名の参加がありました。初めての参加は深浦さんでした。昨年1月に亡くなった細見（杉浦）

さんに黙祷を捧げて彼女のお話などが出ました。会を追うごとに会員がぼつりぼつり減る寂しさを経験する年齢になったのだとしみじみ感じます。引き続き皆様の近況報告と昔話に花が咲きました。今後も皆様長生きをして時々皆さんの顔を見に来てください。

（原田 昌弘）

17期



17期 古希ランナーと古希応援団 (第6回大阪マラソン)

日時 2016年10月30日

場所 大阪

2016年10月30日、東京現住の中西俊秀氏が古希記念として第6回大阪マラソンにエントリーされ、4時間を大幅にきる成績（3時間48分）でフルマラソンを快走されました。

63歳で東京マラソンに当選してから走り始めてマラソンの面白さにハマリ、その後、ボストン、防府マラソンなど計19回を全て完走されているとのこと。

当日は、関西在住の同期8名が応援隊を組んで横断幕などを用意し、4ヶ所でハイタッチ交換と声援をおくっ

た。（京都大学の）山中伸弥先生とのデッドヒートにわくわくしながら、古希を過ぎたとは思えぬ快走にエール交換とパワー交感の応援を楽しんだ。終了後、「4分ほど負けた」と悔しがすが「相手は15歳も若いのだから」と快走を讃たえた。3日後には「次の大会（12月に行われる、山口県の「防府読売マラソン」）の準備を始める」という元気でした。後日、年代別の順位が分かり70歳台前半の部（109人完走）で、なんと、2位でした！

（藤井 敏）

17期



17期同窓会

日時 2017年4月22日

場所 ホテルグランビア大阪

2017年4月22日（土）、ホテルグランビア大阪にて同窓会を開催した。

17期の同窓会は不定期な開催であったが、還暦を過ぎてからは2年に一度開催するようになった。

まず、一昨年亡くなられた吉田耕治さんとこれまでの物故者に黙祷を捧げ、故人を偲んだ。その後、三浦貞彦さんの乾杯の音頭で賑やかに始まった。

今回は全員が古希を迎えた時期で、「祝古希」の節目の同窓会ということもあり、東京、千葉、岡山、三重など遠方から、さらには久しぶりに元気な顔を見せてくれた懐かしいメンバーの顔もあり、35名の参加者があ

た。中には古希ではなく傘寿や喜寿を迎える頼もしい同期生も交えての、楽しい・愉快的な同窓会となった。

辻内源英さんの進行により、それぞれ近況を報告したが、定年後の第2の仕事、家庭事情などに加えて体調や健康に関する話題が多くなったのにはやはり改めて年齢を感じさせられた。また西村和夫さんから17期有志で催行している万葉旅行の紹介、北澤恵子さんからは薬友会の報告もあり、あっという間の3時間であった。次会も2年後の開催（次期幹事は西原亨さんと今西裕子さん）を決め、元気な再会を約した。

（五十嵐 理慧）

23期



23期ミニ同窓会

日時 2016年4月24日

場所 ヒルトン大阪
「ダイナミックキッチン&バー 燦」

平成28年4月24日（日）、ヒルトン大阪のダイナミックキッチン&バー燦にて、1971年入学組のミニ同期会を開催しました。

我々男性陣は卒業後も飲み会と称して毎年集まってはいましたが、2000年に初めて正式に同期会を開催、それ以来昨年に15年ぶりに13名参加で男女合同のミニ同期会を開き、今年度がその2回目でした。参加者17名は、久方ぶりに会った人もおり、最初こそ多少の戸惑いもありましたが、学生時代を共に過ごした仲間として、近況報告やら思い出話やらに花が咲き、あっという間に三時間が過ぎました。

皆60代半ばとなりましたが、多くの方々が様々なライフステージを越えて、今また自身のための新しいス

テージに歩み出しています。多少のブランクを経て再び薬剤師として活躍している方も大勢います。私自身は、皆さんの視野の広さ・見識の高さ・前向きに生きる逞しさに圧倒されました。

そして、来年も4月23日（日）に同期会を開催することを約束し、散会しました。今後も各人のネットワークを活用して連絡網を充実させたいと思っておりますが、この記事をお読みくださっている方の中に、連絡が行き届かなかった同期生の方がいらっしゃいましたら、是非藤岡（fujioka@phs.osaka-u.ac.jp）までご連絡ください。

来年また多くの方々と元気に再会できますように。

（藤岡 弘道）

43期



43期同窓会

日時 2016年7月2日

場所 梅田「名家 華中華 E-ma 本店」

1991年入学（43期）の製薬化学科の25周年同窓会を2016年7月2日（土）17:00～20:00に梅田（名家 華中華 E-ma 本店）で開催しました。参加者は埼玉県（2名）、茨城県、神奈川県からの来訪者も含め13名でした。

5年毎に開催している同窓会。話し方や考え方は出会った頃とほとんど変わらなくて、出会ってすぐに昔話に花が咲きました。近況報告タイムでは起業した、転職した、転勤した（海外、国内）、結婚したなどの声が多かったです。急遽欠席となったクラスメイトの家業都合や育児都合などの理由を聞くにつけても、各人がそれぞれの人生を歩んでいることを感じました。

前回2011年は石橋、今回は梅田で開催した同窓会。次回2021年は関東在住者が増えていることから東京・品川・熱海あたりで開催しようという話も出ましたし、関東在住者にとって大阪弁を含めた大阪の空気に触れる貴重な機会であることから大阪で開催しようという話も出ましたが、具体的な開催日時・場所については2021年の早々にアンケートを実施する予定ですので、住所・メールアドレス変更などがありましたら幹事までお知らせください。

では、また5年後に元気で会いましょう。

（石川 達也）

分析の会



薬品分析化学講座同窓会 （分析の会）

日時 2016年11月20日

場所 ヒルトン大阪
「ダイナミックキッチン&バー 燦」

昭和40年～50年初頭に薬品分析化学講座に在籍し、当時助教授であられた由岐英剛先生にご指導頂いた同窓生17名が由岐先生ご夫妻を2年ぶりに大阪にお招きし、大阪ヒルトンウエスト6階のレストラン「燦」にて同窓会を開催しました。

山路さんの開会の挨拶の後、恩師由岐先生から米国大統領居住のホワイトハウスの思い出等興味深いお話

をして頂いた後、古嶋さんの発声で乾杯をして歓談のひと時を過ごしました。参加者各人の近況報告や不参加者から報告されてきた近況報告から60歳代半ばから70歳代半ばの同窓生が今も何らかの形で社会で活躍されている様子、加齢に伴う持病とうまく付き合いながら人生を楽しんでおられる様子等が伺えました。

（樋口 貞夫[17期]）

卒業生

近況報告

卒業生の方々の近況を
ご紹介させていただきます

下山 敦子

43期（薬化）

アステラス製薬株式会社 物性研究所

2017年3月、小比賀聡先生のご指導の下、博士後期課程を修了いたしました。製薬会社の研究員として過ごす日々の中で改めて勉強したいとぼんやりと思っていたところ、博士前期過程修了でのご指導いただいた今西武先生の古希のお祝いの席で小比賀先生とお話したのが縁で始まった大学院生の生活でした。静岡での社会人生活、母親業との三足のわらじで、途中にはつくばへの異動もあり、小比賀先生はじめ研究室の皆さま・同僚・家族にも多大なる支えをいただきながら過ごした濃密な三年間でした。振り返ると良い思い出ばかりです。新しく得た知識や経験、そして何より貴重なご縁を大切に、これからも一歩ずつ進んでいきます。



東山 真二

院48期（工学）

大阪大学微生物病研究所中央実験室 准教授

2003年3月に博士後期課程を修了後、大阪大学微生物病研究所に赴任し14年が経ちました。微生物病研究所では、主に共通利用機器の運用を担当する中央実験室の所属し、RI実験室の放射線取扱主任者として選任されています。中央実験室では機器の維持管理だけでなく、主に研究所

内の研究者からサンプルを預かり解析する、受託解析業務（質量分析、セルソーティング、電子顕微鏡観察、サンガーシーケンス）を請け負っています。

世界トップレベル拠点として設置された大阪大学免疫学フロンティア研究センターとの連携もあり、毎年多くの研究者の利用がありますが、現場の管理者として最新の研究に触れながら、いち早く研究者の要望に応えることを目指しています。



福田 純明

院48期（微生物）

日本たばこ産業株式会社



私は山元 弘先生のご指導のもと2002年に博士前期課程を修了後、現在は日本たばこ産業医薬総合研究所にて、代謝性疾患の創薬研究に薬理担当者として携わっています。患者様のためによりよい薬を届けたいという

気持ちを胸に日々研究を主体とした業務に勤しんでおります。そのような中、2年程前に大学との共同研究を行う機会に恵まれ、久しぶりにアカデミックな研究の面白さを感じることができました。これがいい機会と考え、本年初頭に社会人特別入試を受験し、出身講座である細胞生理学分野にて博士後期課程に進学することとなりました。これからは企業での創薬研究と大学での基礎研究のいいところを融合できるよう、共に推し進めていきたいと考えております。

岡本 貴行

49期（薬剤）

島根大学医学部薬理学講座

2003年に薬剤学分野（眞弓忠範先生、中川晋作先生）にて博士前期課程を修了し、2004年に博士後期課程を

中途退学後、三重大学医学部分子病態学（鈴木宏治先生、島岡要先生）にて助教として約12年勤めました。2016年4月より島根大学医学部薬理学講座の准教授として異動しました。



現在、血管での炎症と血液凝固のクロストークが示す病態生理の解明に取り組み、将来的に臨床の現場で活かせる研究をしたいと考えています。地方医学部では医師不足、地域医療の充実などが課題ですが、同時に研究できる医師の養成が求められています。私自身が研鑽を積みつつ、基礎医学研究の発展と将来的に地域医療を支える人材の育成に貢献していきたいと思っています。

塚本 恵美 (旧姓:中谷)

52期 (薬情)

大阪大学薬学部 情報・計量薬学分野 技術補佐員



私は2004年3月に薬学部総合薬学科を卒業し、他大学で生命科学修士号を取得した後は研究員として研究を続けていましたが、ここしばらくは育児に専念しておりました。末子が小学生になるのを機に、今年2月より

情報・計量薬学分野で技術補佐員としてオーファンドラッグのリスク管理システム構築に関する基盤的研究に携わっています。本研究では、サリドマイド製剤にて治療を受ける患者さんからの電話インタビューをお手伝いすることもあり、患者さんの不安や期待の気持ちに直に触れ、薬の安心とは何かを考えさせられる貴重な経験の場となっています。今後、安心・安全な医薬品の提供に貢献できるよう微力ながら尽力していきたいと思っています。

森本 智恵子 (旧姓:小川)

56期 (合成)

日本新薬株式会社

私は博士前期課程を修了後、2010年に日本新薬株式会社に入社しました。専門は有機化学で大学での知識を生

かし、2014年まで創薬研究を行っていました。2015年からは少し部署が変わり、現在はプロジェクトマネジメントを行っています。

昨年12月に、第一子が誕生し、育児に追われながらも幸せな日々を送っています。現在は新薬の開発には直接携わっていませんが、製薬会社で今後も薬の開発に携わり、人々また子供の健康に貢献していきたいと思っています。



狭間 啓佑

57期 (薬理)

小野薬品工業株式会社



2008年から6年間、神経薬理学分野でお世話になり、2014年に博士後期課程を修了しました。在学中は精神疾患研究に携わり、意思疎通のとれない動物と悪戦苦闘しながらも充実した学生生活でした。小野薬品工業

株式会社に入社後も、幸いにも中枢疾患の創薬研究に携わることができ、神経薬理学分野で学ばせて頂いた研究手法を活かして化合物の作用機序検討に取り組んでいます。職場では、研究に留まらず、薬剤の市場価値の見積もり・臨床試験の成功確率を上げるための活動も必要とされ、創薬活動の難しさを痛感する日々ですが、私の仕事が少しでも病気の克服に繋がることを信じて苦勞を厭わず取り組んでいます。

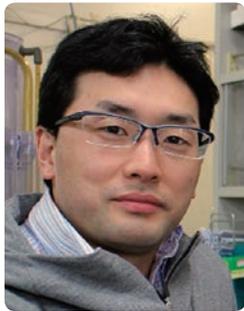
庄司 正樹

院57期 (生化)

徳島文理大学薬学部生化学教室 助教

私は、2012年3月に分子生物学分野にて博士後期課程を修了し、徳島文理大学薬学部生化学教室の助教に採用されました。研究テーマは、博士後期課程時とはガラッと変わり、インフルエンザウイルス及びヒトiPS細胞の研究を行っています。移籍した当初の研究室では、ウイルスやヒトiPS細胞を取り扱う環境が全くできており

ませんでした。分子生物学分野で培った研究環境を一から整える経験が役に立ち、直ちに研究を開始できました。現在まで、各々の研究分野での論文を書くことができているので、うまく回ってきたなと感じております。



これからは、様々な研究分野を経験してきた私にしかできない研究を創っていきたく思っております。

山野 喜

院57期（生薬）

広島大学薬学部生薬学研究室 助教



2012年に天然物化学分野にて博士後期課程を修了し、その後広島大学に助教として赴任して5年目になります。最近は落ち着いてきましたが、赴任した当初は講義の準備、研究テーマの確立、学生との距離の取り方などに苦労しました。特に講義は準備するものもやるものも結構疲れます…。在学時に研究室で教わったことを存分に活かすことができる仕事に就くことができ非常に満足しています。一方で、教員という立場になり、研究者以外の様々な進路希望をもつ学生に対してなにを教えることができるのかなど、悩むことも多いです。日々やらなければならない雑用も多いですが、自由に研究テーマを考え、実験できる環境は代えがたいものであり、充実した毎日を送っています。

森下 裕貴

58期（毒性）

国立医薬品食品衛生研究所

私は、堤 康央先生（毒性学分野・教授 / 大学院薬学研究科長・薬学部長：39期）に御指導賜り、平成27年3月に博士後期課程を修了しました。同年4月から、日本

学術振興会の特別研究員として、国立医薬品食品衛生研究所、医療機器部にて、医用材料開発に関する研究に従事しています。勉強中の身ではありますが、官の研究機関に身を置くことで、研究に際して、実用化やレギュ



レーションを含めて全体像を考えるようになり、視野が広がったと感じています。研究者としての基礎をご指導くださいました、大阪大学薬学研究科の先生方へ感謝し、今後更に経験を積み、成長したいと念じております。今後とも御指導・御鞭撻の程、何卒、宜しくお願い申し上げます。

熊谷 渉平

59期（薬効）

帝人ファーマ株式会社



2016年に博士後期課程を修了し、現在、帝人ファーマ株式会社で医療用医薬品の研究者として働いております。私は、探索研究やテーマの立ち上げなど、創薬プロセスの一番上流に位置する仕事に携わっています。入社間もない私の意見も真剣に聞いて下さる先輩や上司が多く、担当プロジェクトだけでなく、自身で考えた探索研究も積極的に進めています。薬効で6年間学んだ知識が全てそのまま活かされるわけではありませんが、大学院時代に養った「自ら考え研究を進める力」は私の財産となっております。

創薬研究者として必要な知識を身に付け、テーマの立ち上げや推進をリードできる研究者に成長したいと思います。

小林 孝二郎

59期 (物化)

第一三共株式会社



2013年3月に博士前期課程を修了し、第一三共株式会社に入社して4年が経ちました。私は現在、2つの抗がん剤品目において、プロジェクトリーダーのサポート業務をしています。各医療機関に治験を依頼・確認・

データ回収を行う治験推進担当に加え、CRO(受託臨床試験機関)のマネジメントなどの業務を担当しています。担当試験はグローバル臨床試験で、社内・社外問わずグローバルの人々と協力しながら治験を進める必要があります。日々難しさを感じております。しかし、治験関係者とコミュニケーションをとり、試験を推進し、自分の担当した治験薬が著効したときには非常にやりがいを感じます。今後も新薬をいち早く患者様の元に届けるため、日々努力していきたいと思っております。

堀井 千明

60期 (分析)

淀川キリスト教病院 薬剤部



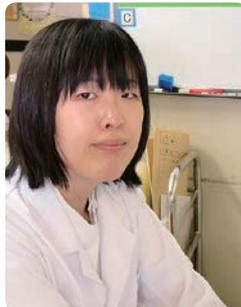
2014年に薬学部薬学科を卒業し、卒業後から病院薬剤師として働いています。私は祖母の入院をきっかけに、入院中の患者さんの薬に対する不安をなくしたいと考え、病院薬剤師を目指しました。2年目から病棟業務

にも携わることができ、患者さんのベッドサイドへ行ってお話を聞いたり説明をしたりしながら、医師や看護師とのコミュニケーションも大切にしよう心掛けています。最近は新人薬剤師に調剤業務を教える役割も任され、先輩に教わったように伝えられているのか悩む毎日です。患者さんに安心を届けられる薬剤師となれるように、後輩たちがやりがいをもって仕事をできるように、日々頑張りたいと思っております。

角 明香里

61期 (応環)

市立吹田市民病院 薬剤部



2015年3月に薬学部薬学科を卒業し、市立吹田市民病院薬剤部に入職してはや2年が経ちました。昨年4月からは病棟薬剤師として整形外科・泌尿器科を主とする病棟を1年間担当させていただきました。入院患者さん

の持参薬確認や薬歴管理、服薬指導など業務はさまざままで、はじめは慣れないことに戸惑うことも多くありました。しかしながら、在学時代に培われた「さまざまな角度から物事をみる力」を活かして、時には処方に対し疑念を持ち、他職種のスタッフと連携してより質の高い医療を提供できるよう日々奮闘しています。この4月からは消化器内科などを主とする病棟の担当となり、扱う症例も大きく変わりますが、初心を忘れず頑張りたいと思っております。

一瓢 奨

院61期 (蛋白)

東和薬品株式会社



2015年3月に博士前期課程を修了し、その後東和薬品に入社して早くも2年が経ちました。入社後は、医薬情報部という部署で添付文書や医薬品インタビューフォームなどの資料作成、医療関係者向けホームページで

の情報提供業務に従事しております。はじめは慣れない業務に戸惑うことも多々ありましたが、上司や先輩方にサポート頂きながら、業務の理解を深めております。まだまだわからないことばかりですが、資料やホームページを通して、医療関係者、さらには患者さんに適正使用情報を伝えられるように日々精進したいと思います。

最後になりましたが、薬学研究科の益々のご発展を祈念し、近況報告とさせていただきます。

角居 雄太

62期（製造）

アステラス製薬株式会社合成技術研究所

2016年に博士前期課程を修了後、アステラス製薬に入社しプロセス化学に取り組んでいます。研究所では、環境負荷、安全性、経済性など様々な観点から合成方法を俯瞰し、医薬品の安定供給に向けて、日々化合物と向き合っています。大学の研究室とは少し異なった視点も多いですが、研究室で培った有機化学の知識や経験が基盤となり、仕事に役立っていると感じております。研究所は山や川、海など、たくさんの自然に囲まれアウトドアにはもってこいな環境です。最近は写真を撮ったり、ゴルフしたり、バンジージャンプに挑戦したりしています。研究室生活のように、楽しく学び、楽しく遊ぶを忘れずに、これからも頑張りたいと思います。

**中務 ひとみ**

62期（先進）

大阪市立大学医学部附属病院 薬剤部



私は2016年3月に薬学部薬学科を卒業し、その後大阪市立大学医学部附属病院で薬剤師として勤務しています。現在は整形外科病棟の担当薬剤師として、処方提案や薬の情報提供を行ったり、患者さんに服薬指導をしたりしています。入院患者さんが笑顔で退院していくこ

とに薬剤師として関わっていることがとても嬉しく、日々やりがいを感じています。病棟業務を知るきっかけとなったのは Pharm.D コースでの実習でしたので、在学中指導してくださった先生方に感謝しています。

入職時から希望していた病棟業務に携わられていることを嬉しく思い、期待に応えられるよう、責任感をもってこれからも頑張っていきたいです。

田中 翔梧

63期（療薬）

株式会社アインホールディングス



2017年に薬学部薬学科を卒業し、現在は調剤薬局で働いています。現在の勤務先は、大きな県立病院の門前薬局で毎日忙しいですが、子供から老人まで幅広い年代の患者さんと接することができるため、やりがいも大きく、充実した日々を過ごしています。働き始めてまだ2ヶ月あまりで、まだまだ勉強することはたくさんあり、自分の知識のなさに悔しい思いをすることもあります。先輩方の力を借りつつ、患者さん一人一人と向き合っています。これからも大阪大学で学んだことを生かしながら、患者さんに元気と笑顔を届けることができるような一人前の薬剤師となれるように、精一杯頑張っていきたいと思います。

大阪大学沢井記念薬友会賞受賞

研究部門賞

中山 博之

特別会員

大阪大学大学院薬学研究科臨床薬効解析学分野 准教授



この度は、大阪大学沢井記念薬友会賞研究部門賞を賜り大変な栄誉と感じつつ、このような晴れがましい機会を与えて頂きました諸先生方に心より感謝申し上げます。自己紹介を兼ねて、私のこれまでの研究について述べさせて

頂きます。私は、平成5年に大阪大学医学部を卒業後、6年間主として循環器内科医として臨床に携わりました。その間に、アデノシンによる心臓の虚血再灌流傷害の軽減や心不全・心肥大に伴う心筋代謝の解析等の臨床研究を行う機会に恵まれました。平成11年より、大阪大学大学院医学系研究科にて遺伝子改変マウスの作製・解析による心臓分子生物学の研究を行い、臨床医としての疑問であった心不全の病態解明と新しい治療法の確立を目指して、充実した4年間を過ごさせて頂きました。その後、心臓のカルシウムシグナリング研究を継続するべく、米国シンシナティのMolkentin教授の研究室に留学し、心病態の形成における様々なカルシウムチャネルの役割を解明するプロジェクトを遂行させて頂きました。Molkentin教授がHoward Hughes Medical Institute Investigatorに任命された時期と一にして、同研究室のResearch Instructorに昇進させて頂いた事もあり、非常に潤沢なリソースのもとでのシンシナティでの研究は、6年半に及びました。平成23年5月より、当研究科・臨床薬効解析学分野の藤尾教授の主宰する研究室において、研究する機会を与えて頂き、私自身が10年間にわたる研究より、心不全の原因として注目していたL型カルシウムチャネルの制御サブユニットのシグナルの局在性に関する研究を施行し、論文にまとめる事ができました。今後も、地道に独自性のある研究を続けていきたいと考えており、当研究科におきまして研究と教育に尚一層の精進してまいる所存であります。今後とも、皆さまの御指導・御鞭撻を、何卒宜しくお願い申し上げます。

研究部門賞

樋野 展正

48期

大阪大学大学院薬学研究科生命情報解析学分野 助教



この度、「光架橋性人工アミノ酸導入による細胞内タンパク質間相互作用解析」という研究課題で、平成28年度大阪大学沢井記念薬友会賞研究部門賞を拝受致しました。この場をお借りして、萬年成泰会長をはじめ薬友会の皆様に厚く御礼を申し上げます。また、本研究の遂行にあたりご指導、ご協力を賜りました土井健史教授、研究室の皆様、ならびに共同研究を通じてお世話になりました先生方に深く感謝申し上げます。

生体内では、ほとんどのタンパク質は他の様々なタンパク質と相互に作用することで多彩なネットワークを形成しています。そのため、タンパク質の生理的機能の解明やその異常に端を発する疾患原因の究明には、細胞内で実際にどのようなタンパク質と相互作用しているのかを明確に掴まなければなりません。私はこれまでに、解析したいタンパク質に光架橋性人工アミノ酸を特異的に導入することで、細胞内で実際に生じているタンパク質間相互作用を、光を当てたタイミングでスナップショットのように捉えることができる「細胞内光クロスリンク法」を独自に開発してきました。本研究課題では、これまで特定の細胞株にしか適用できなかった本手法を、多様な細胞種への遺伝子導入が可能なアデノウイルスベクターを用いることで、初代培養細胞や各種がん細胞株など医学生理学的に有用な細胞内での相互作用解析へと応用することを可能にしました。また、本手法を用いて発見した相互作用には、ゲノムDNAのエピジェネティクス修飾の調節機構に関与するものやがんで変異したタンパク質で生じるものなど全く新奇なものも多く含まれており、これを手掛かりとして当初の目的であった新規生理機能の解明や疾患原因の究明に迫れるのではと考えています。今後は本受賞を励みにさらなる研鑽を積み、オリジナリティーの高い研究を推進するとともに、社会に還元できる成果を生み出せるよう努力していく所存です。



奨励賞 (D4)

勢力 薫

薬理

[H29.4.1以降所属]

大阪大学未来戦略機構 特任助教(常勤)専任

この度、「全脳イメージング法を用いた精神疾患動物モデルの脳機能解析」という研究課題名にて、平成28年度薬友会奨励賞を拝受いたしました。まずは、この場をお借りして、薬友会の皆様には厚く御礼申し上げます。このような賞を頂きましたこと、大変光栄に存じます。

本研究課題は、脳機能解析における新技術の開発と、その応用による精神疾患モデル動物の病態解析に関する研究です。これまで、疾患モデル動物を用いた脳内変化の探索では、多数の脳領域の中から特定の局所領域に着目し、細胞の形態や神経活動などの微細な変化が同定されてきました。一方で、うつ病や統合失調症などの精神疾患で変調が認められる高次の脳機能は、多数の脳領域の活動が統合されることで制御されています。そこで、疾患に関連する神経ネットワークの変化と、各局所領域における微細な変化を結びつけて解析するため、私は新しい研究手法として、高精細全脳イメージングシステムの開発に取り組んで参りました。本システムは、マウス脳に存在する全ての細胞の空間分布を捉え、細胞レベルの脳構造や神経活動の変化を全脳領域で網羅的に解析することを可能にするものです。その実用例として、疾患モデルマウスの単一細胞レベルの全脳活動マッピングにより、疾患との関連があまり知られていない脳領域が顕著に活性化し、疾患様の行動に関わることを見出すことができました。さらに、本システムは、マウス脳よりもサイズの大きい、マーモセットという霊長類の全脳や、ヒト死後脳組織の三次元イメージングにも応用することができます。本システムが、モデル動物からヒトへの橋渡し研究に向けた新しい研究手法として医療・創薬に貢献できれば幸いです。

最後になりますが、本研究課題を遂行するにあたり、多大なる御指導・御鞭撻を賜りました橋本均先生をはじめ、御助力を賜りました神経薬理学分野の皆様、国内外の多数の共同研究者の皆様、大阪大学未来戦略機構 生体統御ネットワーク医学教育プログラム、日本学術振興会に心より感謝申し上げます。



奨励賞 (D3)

宮脇 昭光

薬効

[H29.4.1以降所属]

武蔵野大学薬学部

この度、「心筋炎終息過程では哺乳類成体の心筋細胞の内因性再生機構が活性化される」というテーマの研究で薬友会奨励賞を拝受しました。従来、心臓を構成する心筋細胞は哺乳類成体ではほとんど増殖しないといわれており、ゆえに心筋組織が一度傷害を受けるとその再生は極めて困難であると考えられてきました。現在、心機能の著しく低下した状態(心不全)に対して、iPS細胞等を用いた心筋再生治療が精力的に研究されているのは、この「再生しない臓器」である心臓を外から心筋細胞を足してやることで治療しようという試みです。しかし私たちの研究室では、ウイルス感染などによって引き起こされる急性心筋炎病態では、不思議なことに一旦低下した心機能が炎症の終息と共に自然に回復するというところに注目し、「もしかしたら心臓にはある程度の再生能力が備わっており、心筋炎の際にはその再生能力が活性化されるのではないか」と考えました。学部4年生の時から心筋炎の回復メカニズムを研究し続けた結果、心筋炎時には①心筋細胞の構造が大きく変化し、組織修復に寄与していること、②意外にも高頻度で心筋細胞が増殖していること、の二点を見出しました。この発見は、「再生しない臓器」であるはずの心臓が、心筋炎時には例外的に「再生する臓器」として振る舞っていることを意味します。心筋再生治療の実現に向けては、なぜ心筋梗塞や心筋症など、他の病態時には心筋再生が起きず、心筋炎時のみ心筋再生が起きるのか、という詳細な分子機序の解明が必要ですが、まだわかっていないことが多々あります。今後の研究人生において私、もしくは大阪大学大学院薬学研究科で日々御指導くださり、また励ましてくださった先生方や友人によって明らかにしてゆけたらいいと思っています。

藤尾慈先生をはじめとし、御指導賜りました薬学研究科の諸先生方、そして臨床薬効解析学分野の皆様には厚く御礼申し上げます。



若手奨励賞 (M2)

秋山 敏毅

合成

[H29.4.1以降所属]

大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程 1 年

この度、平成 28 年度修士論文研究発表会におきまして、「ルテニウムナノ粒子触媒の開発とリガンドフリー鈴木-宮浦反応への応用」という演題で薬友会若手奨励賞を拝受いたしました。

金属ナノ粒子担持型触媒は従来の金属触媒と比べて高い触媒活性を有しており、触媒の回収・再利用が可能であることから近年注目を集めています。しかし、その多くは高価なパラジウムナノ粒子触媒であり、より安価なルテニウム等の非パラジウム触媒については数例報告されているのみであり、十分な研究がされておりました。本研究では、当研究室独自のナノ粒子触媒製造法である *in situ* ナノ空間制御法を応用し、繰り返し利用が可能なルテニウムナノ粒子触媒を開発しました。この触媒を鈴木-宮浦反応に付したところ、リガンド等の添加剤を加えることなく多様な基質に対してそれぞれ目的のカップリング体を高収率で得ることに成功しました。この度の受賞により本研究が評価されたことを大変嬉しく思うとともに、日々努力することの意義を改めて実感させていただきました。この栄誉を励みに、今後も精進して参ります。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたり、藤岡弘道先生、有澤光弘先生を始めとする諸先生、学生生活を励まし、支えてくださった分子合成分野の皆様、家族に心より感謝申し上げます。



若手奨励賞 (M2)

大木 康寛

製造

[H29.4.1以降所属]

小野薬品工業株式会社

この度、平成 28 年度修士論文研究発表会におきまして、「軸不斉ピアリアル化合物のリパーゼ触媒動的光学分割法の開発」という演題で、薬友会若手奨励賞を拝受いたしました。

リパーゼを用いた速度論的光学分割 (KR) や動的光学分割 (DKR) は操作の簡便さとエナンチオ選択性の高さの特徴とする極めて有用な合成法ですが、その基質適用範囲は主に第 2 級アルコールや第 2 級アミンにのみ限られていました。そこで私は、本法の有用性を拡張すべく、前例の無い軸不斉ピアリアル化合物のリパーゼ触媒 DKR に挑戦しました。まず、酸化還元反応を活用することで、従来困難であった軸不斉ピアリアル化合物のラセミ化反応をリパーゼが活性を保てる温和な条件下、達成しました。また、リパーゼとラセミ化触媒を共存させることに大変苦労致しましたが、添加剤と反応条件を精査することで本問題を解決し、DKR を達成することができました。本研究を達成する上で困難も多々ありましたが、ひとつひとつの実験結果と向き合い、周りの方々と話し合う事で解決していくことができ、研究の楽しさを感じることができました。本受賞はご指導ご鞭撻を賜りました赤井周司先生をはじめとする薬品製造化学分野の皆様ならびに、終始温かく支えてくれた家族や友人のおかげであり、心から感謝申し上げます。



若手奨励賞 (M2)

森田 健太

合成

[H29.4.1以降所属]

大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程 1年

この度、「エノン存在下での α,β -不飽和エステル選択的変換法の開発とエーテル環合成への応用」という題目にて、薬友会若手奨励賞を拝受しました。

カルボニル基は有機合成化学上、最も汎用される官能基の一つであり、その官能基選択的な変換法の開発は重要な課題です。中でも、不飽和ケトン（エノン）と不飽和エステルは、ケトン及びエステル部への求核的付加反応やオレフィン部位への親電子付加反応の反応性は非常に類似していることが知られています。今回、私はホスフィンとシリルトリフラート組み合わせ条件によって、非極性溶媒中及びプロトン性極性溶媒中で形成する異なる2種類のホスホニウム塩中間体を用いることで、エノン存在下、不飽和エステルのエステル部位ならびにオレフィン部位の選択的変換法の開発に成功しました。また、その応用として2種類のホスホニウム塩中間体を經由した環状エーテル類の多段階 *one-pot* 合成にも成功しました。日々の実験において、研究の難しさや厳しさを痛感することもありましたが、実験検討が成功する喜びを噛みしめることができ、大変貴重な経験をさせて頂けたと思っています。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたりご指導賜りました藤岡弘道先生、有澤光弘先生、村井健一先生ならびに、学校生活をご支援、ご協力くださいました同分野の皆様、家族に感謝いたします。



若手奨励賞 (M2)

吉川 祐介

合成

[H29.4.1以降所属]

大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程 1年

この度、平成28年度修士論文研究発表会におきまして、「(+)-Laurenidificinの構造決定ならびに(-)-aplysialleneの新規合成法の開発とその Na^+/K^+ ATPase 阻害活性研究」という演題で若手奨励賞を拝受しました。

環状エーテルは天然物や生理活性物質に広くみられる重要な構造単位です。中でも2つのTHF環が縮環した *fused*-THF 骨格は (+)-laurenidificin や (-)-aplysiallene などの様々な天然物に見られます。今回私は、*fused*-THF 骨格の立体選択的構築法を応用し、(+)-laurenidificin の世界初の全合成による構造決定と (-)-aplysiallene の改良合成を達成しました。また、(-)-aplysiallene は生体内膜タンパク質 Na^+/K^+ ATPase のサブタイプ選択的に阻害することを明らかにしました。このことから、(-)-aplysiallene は従来の Na^+/K^+ ATPase 阻害剤の強心配糖体とは化学構造が全く異なり、作用機序も異なり、強心薬の新たなリード化合物になる可能性を秘めていることが分かりました。日々の実験において、研究の難しさを痛感することもありましたが、全合成を達成する喜びを噛みしめることができ、大変貴重な経験をさせて頂けたと思っています。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたり、ご指導賜りました藤岡弘道先生、有澤光弘先生、村井健一先生並びに、学生生活をご支援、ご協力くださいました同分野の皆様、家族に感謝いたします。

スタートアップ賞 (B4)

井 康 洋

合成

[H29.4.1以降所属]

大阪大学大学院薬学研究科博士前期課程1年

この度私の卒業研究「*N*-アリル-*o*-アレニルアニリン誘導体とパラジウム触媒を用いた2-アルケニルインドール合成」に対し栄えある薬友会賞スタートアップ賞を拝受いたしました。

近年、アレンは重要な合成ビルディングブロックの1つとなっており、遷移金属錯体を用いたアレンの反応開発についても盛んに研究されています。今回私は、アレン構造を含む *N*-アリル-*o*-アレニルアニリン誘導体と各種金属触媒との新しい反応を見出すため研究に着手しました。種々検討した結果、パラジウム触媒を用いた転移を伴う環化異性化反応が進行することを見出しました。今後はさらなる基質適用範囲の探索を行い、より有用な反応として確立すべく研究に励んでいきたいと考えております。

最後になりますが、本研究を遂行するにあたりご指導を賜りました藤岡先生、有澤先生、諸先生方、分子合成化学分野の学生、家族に感謝申し上げます。

藤 井 茜

薬化

[H29.4.1以降所属]

大阪大学薬学研究科博士前期課程1年

この度、平成28年度卒業研究発表会におきまして、「9-アザフェノキサジン塩基を有する人工核酸の合成と物性評価」という題目で、薬友会賞スタートアップ賞を頂きました。このような賞を頂きましたこと、大変光栄に存じております。本研究では三環性シトシン誘導体であるフェノキサジン人工塩基核酸の9位に窒素を導入した9-アザフェノキサジン人工塩基核酸を設計合成し、その物性変化を研究しております。研究していく中で9-アザフェノキサジン人工塩基核酸はシトシン様構造にもチミン様構造にもなりうる特殊な塩基識別能を有することが判明し、特に三重鎖核酸形成能において魅力的な物性を獲得いたしました。今後は、本分子の特性を活かした更なる応用研究を行おうと考えております。最後になりましたが、私が受賞できたのは、ご指導、ご鞭撻を賜りました、小比賀聡教授、中川治特任講師をはじめとする諸先生方ならびに生物有機化学分野の皆様方のおかげです。心より御礼申し上げます。

吉 岡 祥 平

合成

[H29.4.1以降所属]

大阪大学大学院薬学研究科博士前期課程1年

この度は、私の卒業論文研究「含ケイ素多環式6員環化合物の合成と光学特性」に対して薬友会賞スタートアップ賞をいただきありがとうございます。

ケイ素は α 、 β 効果が大きいことや5、6配位できることなど炭素と異なる性質を持っています。そして、ケイ素を組み込んだ生理活性物質や蛍光物質なども近年発表され注目されています。

私は新たな多環式含ケイ素6員環化合物のワンポット合成法を開発しました。合成したケイ素化合物は同じ骨格の炭素類縁体よりも蛍光収率が300倍も高いことを見出しました(イギリス科学会 Chem. Commun. 2017 in press)。また、脱芳香環化を伴う複数回のDiels-Alder反応が進行するケイ素骨格も発見しました。今後はさらなるケイ素の特徴を発見すべく研究に励みます。

最後に、本研究において幾度もご助言をいただいた藤岡先生、有澤先生、諸先生方、分子合成化学分野の学生、家族に感謝申し上げます。

Taracena Gandara Marcos Andres

生化

[H29.4.1以降所属]

大阪大学薬学研究科博士前期課程1年

この度、平成28年度卒業研究発表会におきまして、「NASH/NAFLD 関連マイクロRNA miR-27bの新規標的遺伝子の脂質代謝における機能解析」という演題で薬友会賞スタートアップ賞を拝受いたしました。

近年、NASH/NAFLDの患者が増加していますが、発症機序に不明な点が多く、有効な治療は未だ開発されていません。そこで、NASH/NAFLDで高発現しているマイクロRNA miR-27bの標的遺伝子スクリーニングにより同定した遺伝子 No. 10に着目し、その機能を解析しました。その結果、遺伝子 No. 10はミトコンドリアにおける脂質代謝に寄与し、そのノックダウンによりミトコンドリア機能不全が引き起こされることを見出しました。また、本研究成果がNASH/NAFLD発症機序の解明につながることを期待し、今後も励んでいきたいと考えております。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたり、ご指導を賜りました水口裕之先生、酒井英子先生をはじめとする分子生物学分野の皆様、また母国から支えてくれた家族に心より感謝申し上げます。

「平成29年度日本薬学会学術振興賞」を授賞して

有澤 光弘 院44期

大阪大学大学院薬学研究科分子合成化学分野 准教授



この度、「創薬研究を指向した高活性金属ナノ粒子触媒の開発」という研究課題で、平成29年度日本薬学会学術振興賞の名誉にあずかることができましたので、この場をお借りして、薬友会の皆様にご報告・御礼申し上げます。具体的には、平成19年度に日本薬学会奨励賞を受賞した後に始めた業績を纏めたものです。

Pd触媒に代表される有機金属触媒を用いたクロスカップリング反応は、現代有機合成化学に確固たる地位を占め、医薬品・農薬等の生理活性物質や有機EL・色素等の機能性分子合成の鍵反応として多用されます。しかし、従来の金属触媒を用いる場合、一般的に適切なりガンドの添加が必要です。そのためコスト面は勿論、後処理や生成物精製の面での問題がありました。そこで最近、その問題点を解決するリガンドフリーで進行するPdナノパーティクル (Pd nano particles; PdNPs) 触媒が注目を集めるようになってきました。しかしながら10回以上の複数回利用が可能で、金属漏洩量が1 ppm以下の液層コンビナトリアル合成に使用できる金属NPs触媒の開発は、私が研究に着手した平成21年当時では例が無く、現在でも挑戦的な研究分野です。

私は、金属ナノ粒子が自己組織的多層状に集積する独自の方法（その場ナノ粒子・ナノ空間調整法 (*in situ* PSSO法)) を発見し、硫黄修飾金に担持したPd触媒SAPd (Sulfur-modified Au-supported Pd) の開発に成功しました。SAPdを用いると、Pdクロスカップリング (鈴木-宮浦カップリング、Buchwald-Hartwig反応)、炭素 (sp^2 及び sp^3) -水素結合活性化反応、ダブルカルボニル化反応、アリールエステルのアリール基除去反応、レドックス酸化還元反応等がリガンドフリーで進行します。またSAPdを用いた三次元多様型プリビレッジ構造ミニライブラリーを創製し、特定のキナーゼを阻害する有望な化合物を見出しています。SAPdは現在頒布されており、医薬品産業・電子材料産業などで広く利用されています。SAPdは板状であり、ピンセットで取り扱うことが出来る操作上の利便性や原料や生成物を吸着しない特性を有しており、有機合成化学者のみならず、物質科学・計算科学などの研究者からも注目され、国内外の多くの共同研究へと発展しています。*in situ* PSSO法により、従来困難とされて来たNi、Ru、Fe等の卑金属ナノ粒子触媒SANi、SARu、SAFeの作製にも成功し、これらを用いたリガンドフリー反応も展開中です。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたりご指導賜りました分子合成化学分野 藤岡弘道教授 (23期)、授賞講演で座長の労を執っていただいた金沢大学 向智里教授 (院24期) をはじめとする諸先生、ご協力頂きました研究員・学生諸氏に心より感謝申し上げます。

「平成28年度日本薬学会近畿支部奨励賞」を受賞して

立花 雅史 50期

大阪大学大学院薬学研究科薬剤学分野 助教



この度、「HMGB1-TLR4シグナルによる骨髄由来免疫抑制細胞の機能制御」という研究課題で平成28年度日本薬学会近畿支部奨励賞を拝受致しました。紙面をお借り致しまして、薬友会の皆様にご報告申し上げます。

骨髄由来免疫抑制細胞 (Myeloid-derived suppressor cells: MDSC) は担がん病態や慢性炎症病態下で出現し、抗がん免疫系の働きを抑制することで、がんの進展を促すと考えられています。また、近年上市された免疫チェックポイント阻害剤の一つである抗PD-1抗体の無効症例においてMDSCの増加が報告されていることから、MDSCは抗PD-1抗体の作用点とは異なる重

要な治療標的であると期待されています。さて、がん細胞は細胞死（ネクロシス）によりその細胞内成分を放出することが知られています。そのような細胞内成分の中でも、High mobility group box（HMGB）1は自然免疫系を活性化することが知られている一方で、免疫応答を抑制することも報告されており、免疫学的に極めて興味深い分子です。これまでに私は、MDSC分化誘導系においてHMGB1がMDSCの免疫抑制能を増強させることを明らかにしてきました。さらに、この抑制能増強はHMGB1の受容体の1つであるToll-like receptor（TLR）4依存的事であることを、TLR4欠損マウスを用いて証明しています。一方で、TLR4リガンドの一つであるLPS（菌体構成成分の一種）について同様の検討を行ったところ、TLR4依存的にLPSがMDSCの分化を顕著に阻害されることも明らかにしました。すなわち、TLR4という共通のレセプターを介するにも関わらず、HMGB1とLPSとではMDSCに対して正反対の作用を示す興味深い知見を得ることができました。免疫応答の本質は「自己」と「非自己」を区別することですが、本研究成果は自己（HMGB1）と非自己（LPS）を1つの分子（TLR4）で区別していることを示唆するものです。今後は、さらに詳細な分子メカニズムを解析し、MDSCを標的とした新規がん治療薬の開発に繋げるべく、本受賞を励みに粉骨砕身の覚悟で激進に進んでいく所存です。

本受賞は、御指導賜りました水口裕之先生ならびに櫻井文教先生、分子生物学分野の方々、共同研究者の先生方とのつながりやご助力の賜物であり、感謝の念に堪えません。最後になりましたが、日々温かく見守り、安らぎを与えてくれた家族に感謝します。

「平成29年度日本薬学会奨励賞」を受賞して

長野 一也 院53期

大阪大学大学院薬学研究科毒性学分野 准教授



この度、「疾患マーカー・治療標的蛋白質の効率的探索基盤の開発と創薬への展開」という研究課題に対して、平成29年度日本薬学会奨励賞を拝受いたしました。この場をお借りして、薬友会の皆さまに受賞の御報告を申し上げます。

近年の分子標的治療薬の台頭や個別化医療の推進により、医薬品開発とその適正使用を進めるためには、治療薬のターゲットとなる治療標的や、病態を把握するための疾患マーカー、医薬品の効果や副作用を予測しうる有効性/安全性マーカーといった、創薬バイオマーカーの同定が重要であり、熾烈な探索競争が展開されています。このような背景のもと、その探索手法として、疾患状態で発現変動している蛋白質を網羅的に解析する疾患プロテオミクス研究が注目されているものの、本領域から有用な蛋白質を同定し、臨床開発にまで至った例は乏しいのが現状です。これは、質量分析技術の進歩により、微量な蛋白質を同定することが容易になった反面、候補となる蛋白質が多くなり、この中から、有用な蛋白質の絞り込みが困難なことに起因しています。本観点から私は、ファージ抗体ライブラリによる *in vitro* 抗体作製法に着目し、疾患プロテオミクス研究で見出される数多くの候補蛋白質に対して、その解析に必須のモノクローナル抗体を作製することで、創薬バイオマーカー蛋白質を効率的よく絞り込むための「抗体プロテオミクス技術」を開発しました。本受賞では、同定された蛋白質を、1つずつ検証していた従来法の非効率性の問題を打破し、網羅的な検証によって、目的に適う蛋白質の効率的な絞り込みが可能になった点を評価いただきました。

この度の受賞は、私の今後の研究活動における大きな活力となりました。今後も更なる飛躍を目指して、努力していく所存ですので、薬友会の皆さまにおかれましては、変わらぬ御指導と御鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたり、終始温かい御指導と御鞭撻を賜りました大阪大学大学院薬学研究科・教授 堤 康央先生（39期）を始めとする諸先生方に厚く御礼を申し上げます。また、一緒に研究を推進してくれました多くの学生諸氏に心から感謝申し上げます。

受賞者紹介

他の受賞について紹介させていただきます

原田 和生 特別会員 上野 菜摘 62期 平田 収正 30期
大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本生薬学会
課題名 メタボローム解析による大黃甘草湯エキス中の sennoside
代謝活性の予測
受賞の名称 優秀発表賞
受賞日 平成 28 年 9 月 25 日

小林 資正
院 22 期 大阪大学 名誉教授

学会名 日本生薬学会
課題名 医薬シーズの開拓を目指した海洋生物資源からの活性天然物の探索
受賞の名称 生薬学会賞
受賞日 平成 28 年 9 月 24 日

南部 寿則
47 期 富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)分子合成化学研究室

学会名 日本薬学会北陸支部
課題名 スピロシクロプロバンの高反応性を活用する複素環化合物の新規合成法の開発
受賞の名称 平成 28 年日本薬学会北陸支部学術奨励賞
受賞日 平成 28 年 11 月 27 日

吾郷 由希夫
49 期 大阪大学大学院薬学研究科 助教

学会名 GPCR 研究会
課題名 統合失調症における VIP/PACAP 受容体 VPAC2 活性化の病態的意義
受賞の名称 第 1 回松尾研究奨励賞
受賞日 平成 28 年 5 月 13 日

学会名 第 30 回国際神経精神薬理学会世界大会
課題名 Overactivation of the VPAC2 receptor during the early postnatal period causes prefrontal synaptic abnormalities and cognitive dysfunction in mice
受賞の名称 JSNP Excellent Presentation Award for CINP 2016
受賞日 平成 28 年 7 月 2 日

勢力 薫
59 期 大阪大学未来戦略機構 特任助教

学会名 第 90 回日本薬理学会年会
課題名 全脳活動マッピングを用いた NMDA 受容体拮抗薬誘発行動異常に関わる脳部位の解析
受賞の名称 年会優秀発表賞
受賞日 平成 29 年 3 月 17 日

石田 良典
院 60 期 大阪大学大学院薬学研究科 特任助教

学会名 第 21 回天然薬物の開発と応用シンポジウム
課題名 栄養飢餓環境選択的がん細胞増殖阻害物質 biakamide 類の構造活性相関と作用メカニズム解析
受賞の名称 優秀発表賞
受賞日 平成 28 年 11 月 1 日

白倉 圭佑
61 期 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程 2 年

学会名 第 17 回 Pharmacology-Hematology シンポジウム
課題名 Robo4 が炎症時の血管透過性を制御するメカニズムの解析
受賞の名称 学生優秀発表賞
受賞日 平成 28 年 9 月 3 日

和田 郁人
61 期 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程 3 年

学会名 遺伝子・デリバリー研究会 第 16 回シンポジウム
課題名 動脈硬化症の治療に向けた遺伝子発現誘導型核酸の開発研究
受賞の名称 奨励賞
受賞日 平成 28 年 5 月 16 日

学会名 遺伝子・デリバリー研究会 第 16 回夏期セミナー
課題名 人工核酸による ABCA1 発現上昇を介した新規動脈硬化症治療法の開発研究

受賞の名称 優秀発表賞
受賞日 平成 28 年 9 月 12 日

学会名 日本核酸医薬学会第 2 回年会
課題名 抗ヒト PCSK9 アンチセンス薬の臨床応用へ向けた効率的スクリーニング及び非ヒト霊長類を用いた薬効確認試験

受賞の名称 優秀発表者賞 (川原賞)
受賞日 平成 28 年 11 月 17 日

川西 真司
62 期 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程 2 年

学会名 第 18 回生体触媒化学シンポジウム
課題名 V-MPS/リパーゼ複合触媒動的光学分割～不斉第 4 級炭素への応用～
受賞の名称 優秀発表賞
受賞日 平成 28 年 12 月 22 日

宝谷 拓磨
62 期 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程 2 年

学会名 日本薬学会第 137 年会
課題名 腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスが HIF-1 α の発現量を低下させるメカニズムの解明
受賞の名称 学生優秀発表者賞
受賞日 平成 29 年 3 月 27 日

堀場 昌彦
62 期 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程 2 年

学会名 12th Annual Meeting of the Oligonucleotide Therapeutics Society
課題名 Synthesis of 2'-O,4'-C-Spirocyclopropylene Bridged Nucleic Acids (scpBNA) Bearing Purine Bases
受賞の名称 Poster Award
受賞日 平成 28 年 9 月 28 日

増田 茂明

62期 大阪大学大学院薬学研究科 特任研究員

学会名 第42回反応と合成の進歩シンポジウム
課題名 フェノールからの直接ベンゼイン発生とそのアミノ化
受賞の名称 優秀発表賞
受賞日 平成28年11月8日

松村 憲佑

62期 大阪大学大学院薬学研究科 博士課程2年

学会名 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2016
課題名 自閉スペクトラム症関連遺伝子POGZの患者特異的 de novo 変異の表現型解析
受賞の名称 Young Investigator Award
受賞日 平成28年8月24日

飯塚 俊輔

院62期 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程2年

学会名 日本薬学会第137年会
課題名 高効率かつ長期的な遺伝子発現が可能な新規Adベクターによる血友病B新生仔マウスに対する遺伝子治療効果の検討
受賞の名称 学生優秀発表者賞
受賞日 平成29年3月25日

伊藤 沙耶美

63期 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程1年

学会名 日本薬剤学会第31年会
課題名 K3(CpG-ODN)の経皮免疫製剤用アジュバントとしての特性解析
受賞の名称 最優秀発表者賞
受賞日 平成28年5月20日

藤原 健人

63期 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程1年

学会名 第32回日本DDS学会学術集会
課題名 各種構造改変キメラ抗原受容体を発現させたマウスT細胞の機能比較
受賞の名称 優秀発表賞
受賞日 平成28年7月1日

学会名 第15回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム2016
課題名 CAR-T細胞療法の最適化を志向したCARの構造/活性相関解析
受賞の名称 優秀発表賞
受賞日 平成28年9月10日

細川 由香里

63期 田辺三菱製薬株式会社

学会名 次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム
課題名 脂質ナノディスク複合体を用いたシトクロムP450薬物代謝評価系の構築
受賞の名称 優秀発表賞(奨励賞)
受賞日 平成28年8月27日

秋山 敏毅

院63期 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程1年

学会名 第46回複素環化学討論会
課題名 ルテニウムナノ粒子触媒を用いたリガンドフリー鈴木-宮浦反応の開発
受賞の名称 Chemistry Letters 賞
受賞日 平成28年9月28日

藤居 由基

院63期 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程3年

学会名 生産技術振興協会
課題名 Synthesis of Novel Polycyclic Nitrogen-containing Compounds Via Ruthenium-catalyzed One-pot Metathesis / Non-metathesis Reaction (第27回国際有機金属化学討論会(ICOMC 2016))
受賞の名称 海外論文発表奨励賞
受賞日 平成28年4月4日

石西 諒

64期 大阪大学大学院薬学研究科 博士前期課程2年

学会名 生物工学若手研究者の集い 夏のセミナー2016
課題名 環境ストレス耐性植物作出に向けた極限微細藻類由来新規応答遺伝子の機能解析
受賞の名称 飛翔賞ポスター賞
受賞日 平成28年7月17日

芳賀 優弥

64期 大阪大学大学院薬学研究科 博士前期課程2年

学会名 日本薬学会第137年会
課題名 乳がん細胞を用いたTriple Negative Breast Cancerの分子病態解明に向けた検討
受賞の名称 学生優秀発表賞
受賞日 平成29年4月12日

武田 真梨子

院64期 大阪大学大学院薬学研究科 博士前期課程2年

学会名 日本薬学会第137年会
課題名 高品質な機能性食品の開発を目指した、非晶質クルクミンの吸収性評価
受賞の名称 学生優秀発表賞
受賞日 平成29年4月12日

中前 壮一郎

院64期 大阪大学大学院薬学研究科 博士前期課程2年

学会名 日本薬学会第137年会
課題名 ヒトiPS細胞の肝細胞分化におけるDNMT3Bの発現及び機能解析
受賞の名称 学生優秀発表者賞
受賞日 平成29年3月27日

大野 茜

65期 大阪大学大学院薬学研究科 博士前期課程1年

学会名 日本薬学会近畿支部
課題名 ハイドロゲルパッチを応用した経皮ワクチン製剤貼付に伴う皮膚内樹状細胞の遊走
受賞の名称 第66回日本薬学会近畿支部大会優秀ポスター賞
受賞日 平成28年10月15日

谷 春佳

65期 大阪大学大学院医学系研究科 博士前期課程1年

受賞の名称 大阪大学楠本賞
受賞日 平成29年3月22日

山下 智起

65期 大阪大学大学院薬学研究科 博士前期課程1年

学会名 日本薬学会第137年会
課題名 回転式細胞培養機材を用いたヒトiPS細胞由来肝細胞の成熟化に向けた基礎的検討
受賞の名称 学生優秀発表者賞
受賞日 平成29年3月27日

平成28年度マルホ大学院生等海外派遣
平成28年度大阪大学薬学部・大学院薬学研究科海外研修助成制度
「大学院生海外派遣」採択者一覧

TRAN THI MY DUEN

博士後期課程3年

目的：BIOSENSORS 2016にてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.5.24～H28.5.29

派遣先：スウェーデン

沖 大也

博士課程2年

目的：ASM Microbe 2016にてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.6.16～H28.6.22

派遣先：アメリカ

三谷 成二

博士後期課程1年

目的：International society for stem cell research 2016 annual meetingにてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.6.21～H28.6.27

派遣先：アメリカ

根来 亮介

博士課程2年

目的：International society for stem cell research 2016 annual meetingにてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.6.21～H28.6.27

派遣先：アメリカ

藤居 由基

博士後期課程2年

目的：第27回有機金属化学国際会議(ICOMC2016)にて口頭発表を行う。

派遣期間：H28.7.15～H28.7.23

派遣先：オーストラリア

後藤 聡子

博士前期課程2年

目的：第16回国際微生物生態学シンポジウム(16th International Symposium on Microbial Ecology)にて研究発表を行う。

派遣期間：H28.8.20～H28.8.28

派遣先：カナダ

朴 鐘旭

博士後期課程3年

目的：第16回国際微生物生態学シンポジウム(17th International Symposium on Microbial Ecology)にて研究発表を行う。

派遣期間：H28.8.20～H28.8.28

派遣先：カナダ

金子 英樹

博士後期課程2年

目的：Larionov教授(米国テキサス州サンアントニオ市テキサス大学)のもとで共同研究を行う。

派遣期間：H28.10.1～H29.1.6

派遣先：アメリカ

寶谷 拓磨

博士後期課程1年

目的：ESGCT and ISSCR Collaborative Congressにてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.10.17～H28.10.23

派遣先：イタリア

若林 圭作

博士後期課程1年

目的：ESGCT and ISSCR Collaborative Congressにてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.10.17～H28.10.23

派遣先：イタリア

邊見 昌久

博士後期課程2年

目的：ESGCT and ISSCR Collaborative Congressにてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.10.17～H28.10.23

派遣先：イタリア

富田 恭子

博士後期課程3年

目的：ESGCT and ISSCR Collaborative Congressにてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.10.17～H28.10.23

派遣先：イタリア

大木 康寛

博士前期課程2年

目的：Harald教授(ドイツ Bielefeld 大学)のもとで共同研究を行う。

派遣期間：H28.10.22～H28.11.7

派遣先：ドイツ

白倉 圭佑

博士後期課程2年

目的：International Vascular Biology Meeting 2016にてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.10.30～H28.11.4

派遣先：アメリカ

宮脇 昭光

博士後期課程3年

目的：American Heart Association Scientific Sessions 2016にてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.11.12～H28.11.15

派遣先：アメリカ

芦塚 萌

博士前期課程1年

目的：American Heart Association Scientific Sessions 2016にてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.11.14～H28.11.17

派遣先：アメリカ

舎川 洸太

博士後期課程3年

目的：American Heart Association Scientific Sessions 2016にてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.11.14～H28.11.17

派遣先：アメリカ

榎本 大智

博士課程4年

目的：American Heart Association Scientific Sessions 2016にてポスター発表を行う。

派遣期間：H28.11.14～H28.11.17

派遣先：アメリカ

寄付および終身会費納入者一覧

薬友会では48期生以降については終身会費制*をとっていますが、それ以前の卒業生には、会費に代わってご寄付をいただくことにしております。下記の一覧は2016年5月1日より2017年4月30日の間に終身会費とご寄付をいただいた方です。ご寄付いただいた会員諸兄弟にお礼申し上げますと共に、引き続き広くご協力をお願いいたします。

なお寄付は1口5,000円とし、同封の振込用紙でお送り下さいますようお願いいたします。また、終身会費をこれまで支払われていない方は、この機会に是非お納めください。

*終身会費は、48期生（2000年の春に学部卒業または大学院入学）以降の会員に、入会時にお支払い頂いております。

終身会費納入者

山本 悠子 (59)	井本 裕佳 (68)	安井 麻姫 (68)	田井中康平 (69)	山野 結衣 (69)
宮脇 昭光 (60)	井山 走太 (68)	山路 凌平 (68)	高橋 奈々 (69)	吉岡 晋 (69)
高本 康平 (61)	上原 治貴 (68)	山本 知佳 (68)	田中 恒輝 (69)	若山英里香 (69)
山口 浩史 (61)	笠谷 雅琴 (68)	吉家 拓馬 (68)	田中 志幸 (69)	脇田 拓朗 (69)
川端 彩加 (63)	金井 孝弘 (68)	栗飯原未貴 (69)	田中 雅人 (69)	井村 智尋 (院51)
南園 真哉 (63)	金子 真也 (68)	安達 智美 (69)	谷林 耕平 (69)	成相 有紀 (院52)
柳瀬絵美子 (63)	河原 真子 (68)	井川 創太 (69)	谷本凜太郎 (69)	松塚 悠 (院57)
吉川 祐介 (63)	菊池 泰河 (68)	生駒 健太 (69)	中嶋圭一郎 (69)	加藤 朋子 (院58)
井貝 圭佑 (64)	嶋田 裕介 (68)	石本 一真 (69)	中村 透唯 (69)	清水 芳実 (院60)
島ノ江知樹 (64)	田中 健 (68)	江口 真帆 (69)	名村 珠稀 (69)	秋山 敏毅 (院63)
田中 駿 (64)	中野 草平 (68)	掛谷 耕平 (69)	西谷 憲人 (69)	伊藤沙耶美 (院63)
藤田亜衣里 (64)	中村あゆみ (68)	金田 侑樹 (69)	野井 天音 (69)	江口 涼介 (院63)
松山 裕美 (64)	中村 悠人 (68)	川口 拓都 (69)	野島 由衣 (69)	大野 祥平 (院63)
井 康洋 (65)	野々村瑞雅 (68)	神原 知明 (69)	林 純 (69)	奥田 匠 (院63)
五十嵐久人 (65)	畑中 隆佑 (68)	岸 勝太 (69)	原 さとみ (69)	岸本 悠希 (院63)
泉 雅大 (65)	平島瑳津季 (68)	齊藤 圭吾 (69)	原田 実季 (69)	森田 健太 (院63)
小椋 紗恵 (65)	前田 貴広 (68)	阪上 詩織 (69)	東元 辰賢 (69)	井澤 洸栄 (院64)
重松 知樹 (65)	松井 美紀 (68)	阪本由佳里 (69)	日南 優也 (69)	神野 佑司 (院64)
細川 大喜 (65)	松村 朋紀 (68)	佐藤 文太 (69)	牧口 実咲 (69)	竹本 裕政 (院64)
山下 智起 (65)	南 佑斉 (68)	澤田 珠稀 (69)	松井 裕大 (69)	中前壮一郎 (院64)
Taracena Gandara	宮岡 辰典 (68)	重村 優貴 (69)	三島啓士朗 (69)	城島 光司 (院65)
Marcos Andres (65)	宮本 真由 (68)	庄 真喜子 (69)	村上佳奈美 (69)	張 天斉 (院65)
白井 星記 (66)	村岡 康介 (68)	鈴木 翔大 (69)	山口 稜太 (69)	中山 博之 (終身会費納入済)

寄付納入者

辻本清日出 (1)	瀬戸 義子 (9)	大久保修司 (14)	米田真理子 (20)	新谷 紀人 (45)
濱 堯夫 (2)	武知ハルミ (9)	中西 信子 (14)	垣内 信子 (22)	朔 優樹 (63)
入江 寛 (4)	石部美智子 (10)	山路 昭 (14)	今西 一郎 (25)	溝口 正 (院6)
入江 明子 (4)	川路 晴子 (10)	西原 照代 (15)	荻野 晴代 (27)	松本 純一 (院9)
奥田 陽子 (6)	篠田 純男 (10)	青山 清美 (16)	網崎 孝志 (29)	山内 博 (院13)
小花 常子 (6)	澤井 弘行 (11)	藤田日出子 (16)	網崎由佳子 (31)	井上 俊光 (院19)
西島 真森 (7)	矢後 雍信 (11)	植木 明廣 (17)	柴山 朋子 (32)	井山 茂 (院22)
尾田 晃一 (8)	伊藤 允好 (12)	北澤 恵子 (17)	竹本 靖子 (35)	鎌田 春彦 (院43)
川端 常樹 (8)	西原 力 (12)	山内 妙子 (17)	小亀里香子 (36)	橋本 均 (特別)
門河 浩子 (9)	眞弓 邦子 (12)	吉田 和子 (17)	田熊 一敞 (39)	藤原 英明 (特別)
鈴木 幸子 (9)	眞弓 忠範 (12)	兼岩 紀子 (20)	近藤 昌夫 (42)	水島 一女 (特別)

文部科学省支援事業『地域チーム医療を担う薬剤師養成プログラム』 平成29年度大阪大学薬学部卒後研修会のご案内

集合単位：1単位（第1, 3, 5, 6, 7, 8回）、1.5単位（第2, 4回）

共 催：大阪大学薬学研究科 / 大阪大学薬友会

日 程 平成29年6月18日から開始。（下記の日程表参照）

会 場 大阪大学中之島センター（<http://www.onc.osaka-u.ac.jp/>）

1, 3, 7, 8回：304号室・303号室、4回：703号室・702号室
大阪市北区中之島4丁目3番53号
（旧医学部跡地、Tel. 06-6444-2100）

エル大阪（<http://l-osaka.or.jp/>）

2, 6回：5F 視聴覚室、5回：6F 大会議室
大阪府中央区北浜東3-14（Tel. 06-6942-0001）

※尚、都合により会場が変更になる場合があります。必ず、下記の大阪大学薬友会ホームページにてご確認の上、ご参集下さい。

目 的 基礎から臨床まで幅広く、最新薬物治療について学ぶことを目的としています。

参加費 無料（参加申込み不要 直接会場までお越しください）

問合せ先 yakuzais@phs.osaka-u.ac.jp

〈研修会日程〉

回	日 程	題 名	講 師
1	6/18(日) 14時～16時	薬物治療の最前線（緩和医療）	市立芦屋病院薬剤部長 岡本 禎晃
2	7/29(土) 14時～17時	症例検討（緩和症例への対応）	市立芦屋病院薬剤部長 岡本 禎晃
3	8/26(土) 14時～16時	薬物治療の最前線（糖尿病治療）	堺市立総合医療センター 藤澤 智巳
4	9/23(土) 14時～17時	症例検討（糖尿病症例への対応）	堺市立総合医療センター 藤澤 智巳
5	10/7(土) 14時～16時	薬物治療の最前線（乳がん）	大阪大学医学系研究科 乳腺・内分泌外科 金昇晋
6	11/23(木・祝) 14時～16時	神経薬理研究の最前線	大阪大学大学院薬学研究科 橋本 均
7	1/27(土) 14時～16時	感染症治療の最前線	大阪大学医学部附属病院 感染制御部 朝野 和典
8	2/24(土) 14時～16時	ドライマウス研究の最前線	大阪大学大学院歯学研究科 阪井 丘芳

薬友会ホームページ更新情報を配信します

薬友会ホームページはおおむね月1回程度更新しています。

ご希望の方に更新情報をお送りしますので、下記の要領にて薬友会事務局へメールをお送りください。

【メール宛先】 薬友会事務局 yakuyukai@phs.osaka-u.ac.jp

【タイトル(件名)】 HP更新情報の配信申込み

【メール本文】 「氏名」「期数」「配信希望先メールアドレス」

平成29年度薬学部および薬学研究科学生在籍数

(平成29年4月1日現在)

薬学部

	定員	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
薬科学科	55	55	69	49	62			235
薬学科	25	26	30	24	28	27	26	161
計	80	81	99	73	90	27	26	396

薬学研究科

	修士課程 (博士前期)				博士課程 (博士後期)					
	定員	1年生	2年生	計	定員	1年生	2年生	3年生	4年生	計
創成薬学専攻	75	81	66	147	20	19	19	22		60
医療薬学専攻					10	2	4	5	0	11
計	75	81	66	147	30	21	23	27	0	71

研究生	
学部	大学院
5	2

平成28年度 卒業者の進路

	卒業生総数	進学	企業	病院	官公庁	教育	その他
薬科学科	57	55	1	0	1	0	0
薬学科	23	0	14	6	0	1	2
博士前期	66	13	52	0	0	0	1
博士後期	18	0	12	0	0	4	2
博士	7	0	3	2	0	2	0

薬友会役員名簿

任期：2014.4.1～2018.3.31 (会計、広報、研修、交流事業担当幹事は2020.3.31まで)

会長 萬年成泰 (9)

副会長 鶴田康則 (16) 馬場明道 (17) 北澤恵子 (17)
西川 修 (21) 戸谷治雅 (23)

理事 大杉義征 (15) 鍋島俊隆 (16) 植木明広 (17)
佐伯とも子 (18) 向井睦子 (18) 岡部 勝 (19)
山村倫子 (20) 米田真理子 (20) 河合裕一 (22)
春田純一 (23) 八木清仁 (24) 糟谷史代 (25)
池淵佐知子 (27) 池田かおり (32) 広川美視 (35)
宇都口直樹 (38) 鈴木信孝 (39) 南 敬 (41)
紀平哲也 (41) 角田慎一 (42) 鎌田春彦 (43)
形山和史 (47)

役付き理事 庶務担当：広川美視 (35) 角田慎一 (42)
会計担当：近藤昌夫 (42) 吉岡靖雄 (47)
名簿担当：伊藤浩介 (57) 廣部祥子 (58)
広報担当：吉田徳幸 (56)
研修担当：鍋師裕美 (院53)
共催交流事業担当：鎌田春彦 (43) 清水かほり (院56)

幹事長 堤 康央 (39)

幹事 庶務担当：赤井周司 (30)
会計担当：大久保忠恭 (特)
名簿担当：小比賀聡 (38)
広報担当：辻川和文 (30)
研修担当：平田收正 (30)
交流事業担当：水口裕之 (39)

平幹事 薬学研究科専任教授全員

監事 森岡茂夫 (17)

監事 藤岡弘道 (23)

最高顧問 近藤雅臣 (2)

名誉顧問 眞弓忠範 (12)

名誉理事 濱 堯夫 (ご逝去) 抱 忠男 (2) 藤井正美 (2)
松本光雄 (2) 岩田宙造 (6) 奥田順三 (9)
西原 力 (12) 田中慶一 (13) 山下治夫 (13)

()内の数字は期数

薬友会だよりに掲載したい原稿がございましたら、辻川和文 (e-mail: tujikawa@phs.osaka-u.ac.jp) までお送りください。

新PharmaTrain教育コース

日本から目指す、医薬品開発のスペシャリスト

2017年
8月
開講

平日忙しい方にうれしい“土曜日”開催!
仕事と両立しながらムリなく通えます。

PharmaTrain
MASTERING MEDICINES DEVELOPMENT
CENTRE OF EXCELLENCE

平成29年度より医薬品開発のグローバル人材育成プログラムPharmaTrainを薬学部主催で実施します。プログラム詳細は薬学部ホームページをご覧ください。

ヨーロッパの官民連携イニシアチブIMIの教育分科会PharmaTrain Federationにより、アジアで初めてCentre of Excellence (CoE)として認証された医薬品開発の体系的な教育プログラム

産官学からの多彩な講師陣の講義による国際標準化されたカリキュラムにて、医薬品開発:創薬、臨床開発から市販後まで網羅した包括的な教育内容を提供

社会人にも対応した土曜日に開催されるコース日程、大阪と東京の2会場を受講可能(両会場をTV会議システムで同時中継)

本コース履修後、大阪大学エクステンションとして修了証、そして2年間のコース修了認定者には、日本製薬医学会から、PharmaTrain Centre of Excellenceコース修了証を授与

締め切り日以降の申し込みについては事務局にお問い合わせください。本コースの1年次は6つのモジュールで構成されていますがモジュール単位の受講(PRPCコース)も可能です。

開催場所	大阪・東京ともにビジネスディストリクトで便利! 大阪会場:大阪大学中之島センター 東京会場:日本橋ライフサイエンスビルディング
受講期間 (1年次)	8月5日(土)~3月3日(土) 全プログラム土曜日開催
申込期限	5月1日(月)~7月8日(土) 受講定員に達し次第、申込受付を終了いたしますのでお早めにお申し込みください。

下記のモジュール(M)はそれぞれ4日間の講義で構成されています。

- M1 医薬品の臨床評価の過程:入門
- M2 医薬品の開発計画
- M3 医薬品開発における臨床薬理学の基礎
- M4 臨床試験デザインの基礎
- M5 医薬品の規制と審査
- M6 医薬品ライフサイクルマネジメント

皆様の受講申し込みをお待ちしております。

コースに関するお問い合わせ

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53
大阪大学薬学研究所PRPCコース事務局
(一般社団法人 臨床医工情報学コンソーシアム関西 内)
Mail: prp-office@conso-kansai.or.jp

ご案内

公益財団法人

千里ライフサイエンス
振興財団

千里 ライフサイエンスフォーラム

参加者、併せて千里ライフサイエンスクラブ会員の募集

千里ライフサイエンスフォーラムとは・・・

- ◇ 知の交流拠点として産学官協力の元、当財団設立に貢献された故山村雄一先生(元大阪大学総長)の「アカデミックな”赤ちょうちん”」の精神による、財団普及啓発事業のひとつとして継続実施。
- ◇ ライフサイエンスの他、文化・歴史など、各分野の第一線でご活躍の方々を講師としてお招きし、月例で講演会・懇親会を開催。

【テーマ例】

「プレジジョン医療はがん医療を変えるか?」「アルツハイマー病治療薬開発の夢を追って」「自動運転技術の最新動向」「大阪をつくった企業家たち」 etc.

ご参照: 最近5年間のフォーラム <http://www.senri-life.or.jp/forum/forum-kako.html>

幅広い知識・教養の向上と

交流を図るため・・・



開催時間・会場

- ・講演会: 18:00~19:00
- ・懇親会: 19:00~20:00(有料、希望者のみ)
- ・場所: 千里ライフサイエンスセンタービル会議室

参加費:1回あたり

- ◇講演会のみ参加 会員/無料
- ◇講演会・懇親会に参加 会員/3,000円
- ビジター/1,000円
- ビジター/4,000円

千里ライフサイエンスクラブ会員

- ◇年会費 2,000円
- ◇会員有効期間 4/1~3/31
- ◇特典 講演会の年12回無料 他

◇入会申込/お問合せ

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル 20F 公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団 フォーラム係
Tel:06-6873-2001 Fax:06-6873-2002 e-mail:srlf-forum@senri-life.or.jp URL:<http://www.senri-life.or.jp>